第四百五十五號目次

◎口　繪
角筈衞生園の景

◎社　說
冬天亦花影なし　長汀

◎家　庭
家政にも亦術數をゆるさず◎冬の朝の床ばなれ
主婦外に出でゝ働くべき乎
家政の工夫（裁縫の工夫◎料理の工夫◎万般の工夫）◎留守中の電信と郵便◎角筈衞生園◎犯罪に於ける家庭教育の影響

◎講　義
兒童の神學思想　久津見息忠

◎文　藝
文武達道談　曲　洏

◎兒　籃
二人の朋友　さくら子

◎隨　感
人互に羨む◎愛の神秘◎人生これ賽の河原◎さみしき妻に告ぐ◎天地各様の景色

◎雜　錄
靜？動？　馬　陵
婦人の外交家　岡田竹澳
我が日の本（歌）　しをん
歸鄕雜賦　嚴本琴城

◎時　文
胃頓◎幕末三傑◎刑罸及犯罪豫防論◎七本櫻◎深山の美人◎西洋娘氣質

◎片々◎時報

社　告

◎本誌は毎月二回即ち十日、二十五日の兩日を以て發行す

◎十日發行の分は稍や簡易實際なる事にし、第一、家庭の整理改善に益ある事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、二十五日發行の分は、女學教界に對する吾黨多年の主義を發表するもの。

◎單に十日發行の分のみを購求せんと所望せらるゝものあらば其望に應ずべし

女學雜誌定價表

前金	廣告料	送金
壹冊　金拾錢 半年前金　金一圓拾錢 一年前金　金貳圓（內國無郵稅） 代金は凡て前金の事◎前金切れの節は封皮の捺印に御注意の上早速御送金有るべし	一行　一回（廿七字詰）前金十錢 同　三回以上　一割引 同　六回以上　二割引	爲替は東京本鄕駒込郵便支局に宛て小爲替にすべし〇郵便切手にて送る人は五厘切手にて且つ一割增を添ふべし

明治廿七年二月十九日內務省許可
明治三十年十二月十四日印刷
明治三十年十二月十五日發行

東京府北豐島郡巣鴨村字庚申塚六百六十番地
發行兼編輯者　嚴本善治

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十六番地
印刷者　島保巌

東京府北豐島郡巣鴨村字庚申塚二百四十六番地
發行所　女學雜誌社

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工場
（電話本局十九番）

第四百五十四號目次

◎社　說
進取開國の氣慨◎女學今後の文政

◎女　學
家庭試驗場
各地工女の狀態（一）
（工女の雇入及誘拐の惡弊◎勞働時間、賃金、契約年限幷に現在人員）
各地女風俗報告集（二）
各地民俗の頽廢、

◎評　論
佛教徒の婦人會（一）　C. D. 生
慨世夜話

◎教　育
教育者慨然として任ぜよ
伊藤侯の教育談◎秋田縣の留學生規則◎秋田山形二縣の學事◎小學女生徒半途退學の原因及救濟法◎慶應義塾

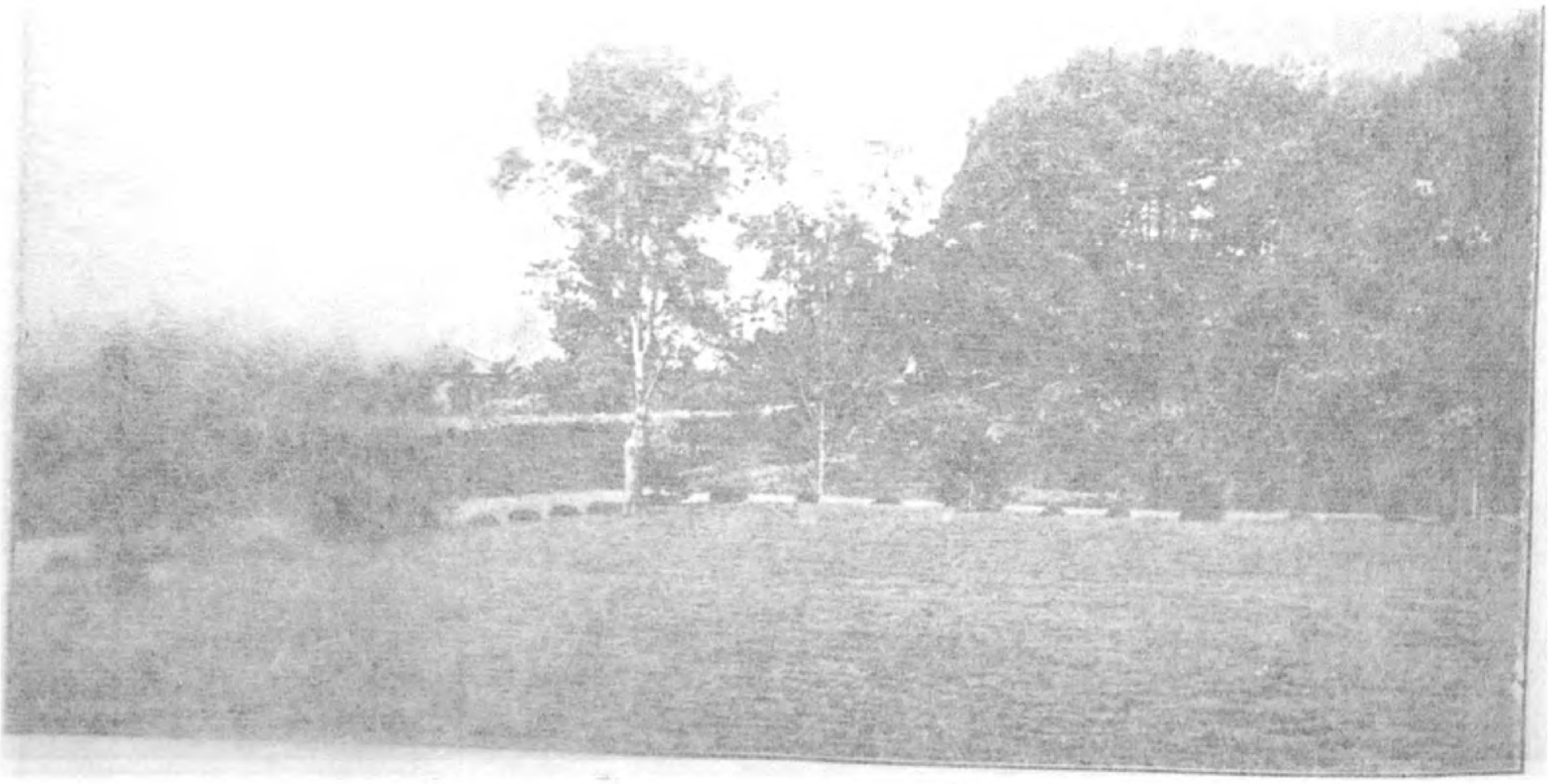
◎隨　感
秋の垂示◎紅葉のいのち◎氷川淸話◎死を決して氷の如し◎万事不成須賁吝志◎團洲左團治の聲樂◎自らは價値なしといふ◎さびしき人の又もあれな◎微笑靜默の友

◎雜　錄
本阿彌妙秀尼の逸事談
山あそび　磐泉女
露伴子の「ひげ男」（霞山）◎白馬會瞥見（好春生）

◎時　文
芭蕉以前俳諧集◎伊達政宗◎列國變局志◎新著月刊◎日の出島高砂の卷

◎片々◎時報

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY



前

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

[illegible]

野に於ける[illegible]

◎詩 [illegible] 久[illegible]

[illegible] 曲[illegible]

[illegible] さくら子

◎雑 感

大丸に於ける要の[illegible] さ

みしさに行く[illegible]

◎雑 録

鄙りそめ? [illegible]

婦人の[illegible]

具が自の[illegible] [illegible]

物理[illegible]

◎時 文

[illegible]

[illegible]人 [illegible]

◎月令 ◎時評

東京[illegible]六十番地

[illegible] 木 昔 治

東京市[illegible]十八番地

[illegible] 島 深 穀

[illegible]四十六

発行所 [illegible]雑誌社

東京[illegible]一丁目十三番地

印刷所 [illegible]

◎[illegible]

[illegible]の[illegible]

由おそび

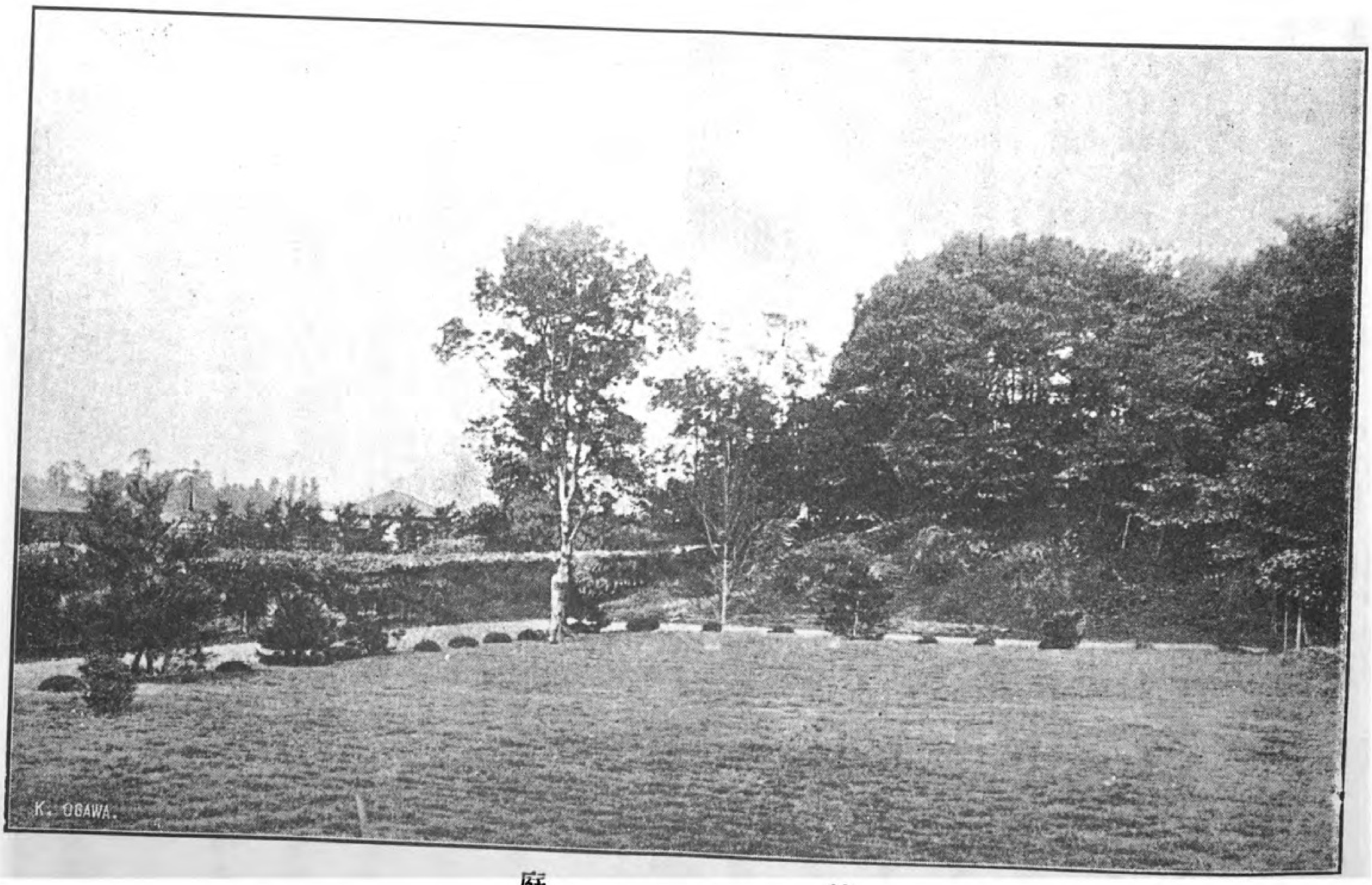
[illegible](六[illegible]) 警 泉 女

◎時 文

[illegible] [illegible]新者

◎月令 ◎時評

角筈衛生園



前庭

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌
第四百五拾五號
明治三十年十二月十四日發兌

社説

冬天亦た花影なし

一年を送り盡して嚴かに思慮するの友よ。人事の變遷少しく回顧するに足らずや。春花、泥にまみれ、秋草、霜に衰ふ。一時の榮華の空なるヿも、大方は推せられたり。人間今に方りて則ち發明するも亦た可らずや。

吾人、今の士人の太だ功名に急ぐを見て、甚だ疑ふ。諸君本我の準備既に了りて、亦た内顧の憂なきに至れるに由るや否やと。單に甚だしく功名に趨るが如きは、其の心事の陋劣なるのみにあらず、亦實に愚たるヿを免れざればなり。

凡そ一家一國に大機あり。大機は即ち大事を要するの秋なり。此の時に方りては、人間最醜最悪の劣情大いに跋扈す。故に撥反して之を正しきに挽回するや事、容易にあらざる也。抑も、非尋常の決斷と、此上なき艱困難澁とを以てせざれば安くんぞ能く之に堪へんや。

かの功名を望むの念は私なり。既に「私」にして利と譽とを求む。元來誤まつて、艱難の事を希望し、單に虚榮を慕ひて實際の勞苦を憶はず、斯あらんとも知らで不幸にして苦境に踏入りたり。其の乍ちにして發明し、身すでに死地に陷りたるヿを感ずるの日や、遠きにあらず。然れども此の時に際するも尚ほ其の私を棄つるヿ能はず。いよ〳〵其私を保護せんとしてます〳〵其境に陷るの痴態は、眼前歷々として其人あり。嗚呼、遙に眺めて其の虚榮に慕ひ、一旦、其の非なるヿを知るに及んで亦既に免れがたし。彼が不運は眞に憫れむに堪へたりと雖ども、天嚴かに其罰を下して容赦するヿ無し。當に然るべき丈けの苦腦は甘んじて受けざる可からざるとなるべし。亦た悲しからずや。

凡そ眞面目の士は、實際の着眼あり。容易すく浮華に迷ふも

のにあらず。彼等が邦家の大事を觀るや、直ちに其の苦を發見して、其の譽を見ず。其の責任の重大なるに寅畏して、其功名の花々しきに顧みず。何の投機心ありてか、敢て殊更に自から任ぜんとはせん。之に任ずるは乃はち非常の苦境に踏入るべきヿなれば也。

且つ夫れ、天下の事や大ならざるにあらずと雖ども、達人大觀し來れば、畢竟、兒戯たるのみ。本來、物々しく大業に見做して、殊更に、其の周旋に奔走すべきにもあらず。或は、知遇に感激して止むヿを得ず草廬を出でんか。もしくは、同胞塗炭の疾苦を見るに忍びず、閑居安逸するは、一身を八裂せらるゝ如くに感じて則はち止むヿを得ず村舍を出づるか。凡そ、赤誠の人の自から進むや、必らずしも這般の消息によつてにあらざるはなし。然らざれば、何等愚かしき好事者となりて、敢てわざ〳〵苦境に踏入らんとはせんや。

蓋し、家庭、親友の快樂は、人生の至福なり。悠々として夫妻同伴し、もしくは、慈親に仕へ、もしくは、愛子を撫で、もしくは、同心の友と語る。快樂の之に及ぶもの、安くんかあらん。但だある所のものは、自然に放遊して、山川に樂しみ、吟咏して風流の美を懷ふ、やゝ之に等し。然るに、殊更に、此等の快樂を棄てゝ敢て苦界に踏入らんとする所のもの、豈に他あらんや。眞に止むヿを得ざれば也。

然るに、浮薄の士は、實地を見ず、單だ表面の虛相に眩す。かの功名の地は乃はち榮華の地なりと誤認して、忙々として之に趨る。眞に愍れむべきにあらずや。吾人が之を陋劣とするのみならず、更に「愚」なりと言ふ所以のものは、之が爲めなり。

且夫れ、公事に任ずるものは、公心を抱かざる可からず。誤まつて些の私心を胸裏に殘すとも、影響至大、忽ちにして結果を四方に流さん。これ天下の公流に立つて、其の源に臨めば也。故に、たとひ止むヿを得ずして村舍草廬を出んとすとも、須からく先づ反省して、本我の心事如何と思慮すべし。もしよく修養を了へて、鍛練既に熟し、赤誠鬱勃して、蒼生を懷ふの公々心、落々として心衷より湧くを覺え、而も尙ほ誘惑に堪へ得べく、逆境に樂しみ得べき、實地の修練最早や可なりと自信するを得ば、則はち起つべし。もし然らずして一朝の感激により、倉皇として出るも、其成す所固より不

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

可ならん。實證夙く心事にあり。未だ一身を平蕩するヿ能はずして如何ぞ能く他の百姓に及ぼすヿを得んや。此を以て、本我の修養未だ可ならざるものは、斷じて公事に任ず可からず。任ずとも、決して善務を擧るヿ能はざるは、明白なり。抑も、何の信ずる所ありてか、無益に非望の結果を要めんとはするや。

嗚呼、人事の騷擾は、過半、益もなき痴心の故によつて來り。本來何の必要もなき事業を徒らに興して、任にあらざる人の忙はしげに奔走するより生ず。人々もし世事の實相を辨識して、馬鹿氣たる非望を懷かず、夫々、分に安んじて家業相應に働き、父子夫婦昆弟相樂しむの情心に温たかにして、浮きたる功名に急がずば、天下則はち太平ならん。亦何ぞ政論家と、政黨屋とを要せんや。

眼を擧げて山月を見よ、山月高く澄めり。首を俯して、秋草を踏めよ、秋草哀れに枯れたり。月、万古衰へず、草年々に枯る。人間の所懷豈に短小なるべけんや。生れて万靈の長に伍し、奇代の寶心を懷く。天地の情理極めて樂しむべく、幽玄の妙、亦た探るべし。何ぞ狹々として無益の勞苦を招かんとするや。一歲既に盡んとす、人の一生亦た斯ありて乃はち可なる乎。嚴かに、一年を回顧して事物の眞相を觀ぜよ。吾等生を享くるの目的豈に尋常ならんや。

家政

家政にも亦た術數を許さず

一家を齊ふるに種々の方法を說くともあれど、畢竟は術數たるヿを免れず。更にもし一層の大事を欠くヿあらば、樣々の方法も亦たすべて空となるべし。古へより聖人術數の賴む可からざるヿを說法して太だ信切なり、人々も之を聞きて精しからざるにあらず。但だ夫れ此等の說法を國家人生の大事件にのみ適用して、戶內日々の些事に思付ず。家政を講ずるものも、只だ術數を說きて止まんとする狀態のあるは、惜しむべきヿなり。

人と人との交接の密なると、家庭に於けるほど近きはなし。寢起、飮食より、起居動作の僻に至るまで、二六時中、互ひ

に見透かして、苟しくも蔽すべき所なし。人間直接の感化の勢力あると、家庭に於けるほど切なるはあらじ。然るに此處に於ても尙ほ術數を賴みにして、手段方法を見て宜しきを收めんとするは、抑も人情のさもしき所以にあらずや。たとひ生れ卑しき下司下郎なりとも、もしくは山出、又はすれからしの下女なりとも、之を御するに、伎倆をもてせんとするは、甚だ誤まれり。何ぞ直ちに吾が赤心を展きて、彼等の腹中に入り、其の內心よりして自然に感動せしめ來るの本道をば行かざる。

凡そつくろひたるものは破れ易く、こさへたるものは永持せず。たゞ自然にして久しき間に出來たるものゝみ、厭かず、剝げず、損ずることなし。言語は品よきが善れど、此にも優さりて大切なるは、言辭に露さんとする情の眞實なることなり。元より風のしとやかなるは美しけれど、之とても心の花より咲き出でずば造りものに似たり、久しからずして厭はれん。三百六十五日、たゞ修飾して日を暮すべけんや。腹の立つことも、忌はしきことも、氣のもさくさすることもあるべけれど、其の根底に、人を思ふ信切のほのめきて、此等の變態と同もに出現し來れば、見るもの遂に勘辨せずと云ふことなし。あゝ、何よりも先づ大切なるは、心の底の誠にてありけり。

此故に、家政の學を學び、家政の方法を講ずるの人よ。其の心緒を万端に走せて、百事千様に苦勞するの下に、たゞ一以て之を貫くの大事を、其の根底に据うるを忘るゝ莫れ。基礎なきの高樓大厦は、夢のまぼろしに似たり。たゞ此の建築に心を寄せて、則はち安全なりと思はんは危からずや。何すれば、早く其の土臺に着眼せざるや。

凡そ、誠の貫徹するは、遲きが如くして實は速し。況してや之を家庭の內に於てす、影響の迅速にして、効果の顯然たるは、誰か亦た異論あるを得ん。然るに、人の尙ほ遠ざかりて此の道を履むことをせざるは、たゞ思はざるの故のみ。別に何等の仔細あるにあらず。

もしよく審かに、所々の家庭を觀察すれば、一家治安の主權は存外なる所に伏在しつゝあることを發見すべし。即はち、無邪氣なる愛らしき子のあるありて、衆の心のもつれを融化するによるもあり。もしくは、下女の働き方、如何にも、感心にて、心がけ太はだ優しく、あらゆる落度を身に負

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

ひて、家中の屑を拾ふことを物うしとせざるによるもあり。もしくは、面白可笑しき下男のありて、家内の避雷針となり、何事か暴雷の落ちかゝらんとするとき、不思議にも其の私なき取つくろひにて、一天俄に快晴するが如きことのあるによることあり。此等は只だ一斑に過ぎず。然れども、人のあまりに頓着せざる邊りの消息を通ずる一助たらずばあらじ。

斯の如きは、抑も何故ぞや。彼等もと巧智を弄して、其の妙法を案出せしにはあらず、たゞ一片、飾ることなく、私することなきの至情楚々として、人を動かすものありて則はち斯の如きのみ、人生感應の妙、こゝに其の一斑を見すに餘りあらずや。

左れば、主婦と言ひて、一家齊治の主權を有つが如くなるも、其實、主權は他の可憐の人にうつり去ること往々にして之れあり。主婦の恥辱にあらずして何ぞや。夫婦たらんもの、よく其の由縁を研究して、一家を齊ふるの根底を辨へ、徒らに名に拘泥せずして、實際の要件果して何事ぞと考へ、上來述べ置たる二三の例證によつて、自から修むるの工夫を盡すことあらば、庶幾くは、家政を理するに於て誤りなからんか。

冬の旦の床ばなれ

よ志子

夜あけて、朝日霜の衣を照し、烏もさむ氣にねぐらより、離れまくするころ、臥間の褥のうちこそ、程好くも温かき哉。起出でんとすれば、何ものかありて、そと袂を制むる心地す。復た刹那の夢を貪りて、僅かにまどろみたるあひだの心地よさよ。

此時に當りて、主婦たらん人、褥のうちより顔さしのべ、下女のまだ起きぬを口あしく罵りて、左りとても、いぎたなき寢樣かな、一聲返辭し乍ら、まだ起き出でぬ横着さよなど、早や其の心立の如何にまで及ぼして、口ぎたなく惡言するこそ、情なき覺悟なれ。

われの起き出でがたきより推すれば無理にはあらず。かれは終日働らきて、我よりは勞れたり。我よりも年若くして、睡氣も亦つよかるべし。我は我家を主裁してすら倘ほ斯の如し、奉公するものゝ氣樂さは無論の事なりと、直ちに氣付くべきはずなれど、自から苦しまぬゆゑに、思ひ遣りなく、思ひ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

遣りなければ、たゞ〳〵人を責めんとする斗りなり。主婦たらんもの、何ぞ率先して身を以て率ゐざる。良き大將は眞先に進み、士卒に後るゝことなし、こゝをもて士卒も能く難を侵す。僅かに朝起の微々たることといへども、亦以て主婦身をひつさげて他を率ゐるの覺悟を養ふ階梯となすべし。我身すでに起き出でがたくば、他は一層に困難ならめと推察し、同情のなさけにて、氣の毒に感じ、挺然勇を鼓して、衆に先だつべし。然らば衆も亦た其氣に鼓せられて、欣喜して心地よく隨ふべし。

惣じて、主婦が、其の召し使ふものに對するは、身を以て率うるの覺悟、尤も肝要なり。我の仕悪きことは、他は一層に仕悪かるべしと思へ。我に心地よきことは、他は一層に好むと思へ。己の欲する所を人に施し、己の欲せざる所を人に代りて辨ずれば、人の服せざることはあらじと思ふ。

夕月夜さほの河風身にしみて
そでよりすぐる千鳥なくなり　　實朝

主婦外に出て働くべき乎

長汀

米國から來たる女宣敎師もしくは矯風會の巡回遊説者等が、日本の婦人、殊に奧樣達が公會等に出て、傳道もしくは矯風事業を助けて呉れる念が薄い、詮ずるに此等の善事に對する同情が淺く、且つ智識が乏しいからだといひて、上邊は兎も角も内心では頗る失望の樣子が見える、蓋しこれは日本婦人の性質と、其家庭の狀態とを知らぬからの誤想にて、米國婦人社會に處するの見解を以て、等しく我國の婦人社會に及ぼさんとするは、目のない譯で、其事業の墓々しからぬは、大方はこの迷想から來るのである。

明治二十一年頃にレビット夫人が我國に來て、基督敎徒の婦人間に、矯風會なるを起して、女子を社會事業に導き出したが、當時は歐化主義の流行した時代とて、奧樣達迄が、躍起となつて、これに關係した事があるが、その迷夢醒めては、時世の變化と共に、主婦などは成丈引込み勝ちになりて、矯風會なども仲々に振はぬ有樣となりて、今日にては僅に其形

骸を維持する丈に止まつて居る。當時此會に働いて、今までもなほ變りなき熱心を有してゐる婦人達も、現況を慷慨して、どうも奥樣達が、會合に出て來ぬといつて不平を溢すとがあるのを間々見かける。

併し、日本の家庭の主婦、こゝに主婦といふは、主として社會の骨髓として一番働きのある中等社會の主婦の事をいふが、其主婦たるものをして、直接外部の事業に關係せしむるといふとは、到底出來ぬ相談にして、今ですらなほ然るに、將來生活の程度が追々進歩すると共に、また主婦の受けたる教育が、家庭に於ける責任の重きとを、いよ／＼多く悟らしめて、遂に主婦は家内の城郭の留守居役に專任して、外事の專務官たるとは出來ないやうになるべき筈だ。

こはたゞに日本ばかりでもあるまじ。假令米國にも、一家の主婦たるものが、公共の事業に日夜奔走するなどいふとは、恐らく出來難き事であらん。米國にて婦人の事業が多く發達して居るといふものは、老孃もしくは寡婦で一身を立つるものが多く、其人達は、其學識と其經驗とを以て、傳道もしくは餘事の公共事業を、自分のプロフェッションと任じて、これで生活も立てゝ居る有樣であるから、其通りである。左樣の人が、我國に來て、家政といふ大責任のある主婦を促し立てゝ、公共事業に盡力せしめんとして、其同情が足らないなどいふは、詮ずるに自らの運動すべき事業の方針を誤つてゐるからで、或は日本にも明治二十一年代のやうなとが、再び來るであらう、來さしたいなど空想してゐるばかりで、遂に事業が擧らぬ。

由來主婦なるものは、自らが家庭に於ける責任の大なるを悟れば悟る程、迚も外に出てゝ働くものではない。加ふるに我國も、追々生活の程度が增進して來て、著しき話が下女の拂底と其給料の增加とにて、前年に二人の下女を置いた家は、一人に減さねばならず、一人の處は、之を解雇して、主婦自ら竈の傍を都と諦めなければならぬ仕義であり、其他諸物價の騰貴、家賃の昂進など、いづれも主婦をして勤儉の家政を施行せしめねばならぬやうになつて、以後おひ／＼其必要が切迫して來る。然るに公共事業が大切だといひて、家に雇人の數を增加して、外事に奔走するやうでは、これは愚の話で、假令何程熱心であつても、大切なる本分を忘れての

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

仕事ゆゑ、感心は出來ぬ。

且又ありもせぬ暇を作りて、奔走したとて、消費した丈の時間と、出來上りたる仕事とを後で通計して見ると、多くは無益の談話や議論に、日を消した位の仕末で、我精神の益にもならなければ、其事業の補ひにもならぬ出來榮である。社會は万事分業の世の中で、主婦は、他事を捨てゝ、家庭の大臣といふ、大切な役目を引き受けたるのである。婦人の公共事業に盡くべき區域は廣い、これも大切ではあるが、それにはそれで專門に分擔する人を求めて、之に委任した方が、賢き仕業である。

さらば主婦は公共事業に關係すべからざるかといふに、決して然らず、大にこれに關係して同情を寄すべきものである。而も自ら直接に之に奔走せずとも、働くべき道は澤山にある。即ち家政に專心奉事して、儉約の餘に產み出したる餘力を以て、直接其公共事業に奉ずる士女を輔助するとは、即ち自ら暇なきに暇を作りて奔走するよりも、餘分の働きが出來る。主婦自ら奔走せずとも、我社會にも追々婦人にして、專門に公共事業に奉ずる、老孃寡婦が澤山に出來るべし。主婦は此人等の事業に賛成する上は、之に同情を寄せて、家に在りて、其等の事業の方面に勘考を加へて、言語を以て、或は金力を以て、第一には同情の温かなる精神を以て、之を補助すべきとなり。早き話が、自分で効力の薄き奔走に車代を費すよりも、其入目を以て專門の事業家に寄進するならば、餘計の役目をなす事がある。

それに主婦が家政に怠りなき中にも、社會の公共事業に、賛成と同情とを以て、熱心に補助するとは、其人の感情を害するとなく、また其精神を以て子女を教育するの助けともなる。日本家庭の主婦が、直接に公共事業に手を出すとなどは、迚も出來ぬ算段であり、また其家庭の平和の爲めにも宜しからぬ事なれば、直接に奔走するものは、差支なき、家庭に關係の薄き婦人のみに任せて、主婦はこれを助けるより外ない。直接の關係者が、主婦の奔走を俟つべきものでない。然るにこの見やすき考の足らぬかして、主婦が少しも公會などに出て助けて呉れぬとて、不平をいふに至りては、折角志ある主婦も、力の及ばぬとと諦めて、頭から賛成するとをもやめれは、またはじめは關係しても、追々には不熱心になる、こ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

れは當然の理だ。初め家政の煩ひの少く、子供も無かつた時代の主婦が、多少表向に盡力したに、煩ひの殖え、子供の出來たので、公會にも顔を出せぬやうになるのは、熱心が欠けたのではなくて、止むを得ぬ事情からなるが多い。此等の事實は澤山にあつて、それに就いて、直接の運動者が、其方針を熟考して、之に應ずるの策を講ずべき筈である。

畧言すれば、主婦は、社會の公共事業に盡力すべし。されどこれが爲めに、外に出でゝ奔走なさすべきものでなく、而も左樣な暇の無き筈のものである。されば婦人の公共事業を企つるものは、此處によろしく注意して、主婦をして、其事業に盡力せしめ得べき最もよろしき方針を執らなければならぬ。しかし此に一ついふべきは、勿論主婦が公會に出で、蛙鳴蟬噪の議論に大切なる時間を消すことは最も嘉みすべからずではあるが、時々、暇のある時は、我贊成する事業の會合に臨んで、先輩の婦人達に交際して、精神の修養に益を受け、且つは、其人々等よりして、家政齊理方につきての、經驗を聞くなんどは、我本分の上に大なる利益となるとがある。暇の許す限りは、主婦も外に出でゝ先輩に交際すべし。されど直接に外事に奔走するとは、賛成の限りに非ず。

家政の工夫

○裁縫の工夫

かも子

新しき布を裁ちて着物にするならば、造作もなき仕事なれども、一家内で、新服調製は年に何枚か、數の知れたる事なるが、扨て主婦に裁縫の心得がなければならんと、誰しも八釜敷いつて、而して其心得は專ら何處に必要なるか、たゞに新服調製の爲めにてはあらず。秋は冬着の洗張ぬひかへ、春は夏物の仕立なほしなど、舊物をやりくりして、見苦しからず調製すると、こゝに主婦の手腕を要すると甚だ多きものにて、また親のものを子に讓り、兄姉のものを、弟妹に着せる爲めのやり繰りは、仲々に工夫を要するものである。其工夫の上手下手で、折角良きものが、惡しく見え、まだ奇麗に着られるものが、見つともなくなり、永く着らるべきものが、命の短かいものとなつて仕舞ふとがある。假令ば、家持親持

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の人の着物は、年數立つても小奇麗に見えるが、書生などが人だのみにする着物は、去年新規に求めたものが、今年の仕立なほしにては、垢のどれないいよ〳〵の古着になつて了る。これは親切のあるとなしとで、自然遣り繰りの工夫に巧拙があるからである。必ずしも新しき着物を澤山にまた上手に調製するが、主婦の賞めた藝ではない、古着を奇麗に命長く着る工夫は、家政の上に大した差し響きとなり、また上手に工夫すれば、奇麗にして着らるべきものと、下手に見苦しく調製して良人や子供に纒はすは、即ち主婦の心掛の程を量らるゝの最も重き種となるなり。

○料理の工夫

八百膳の料理、必ずしも御馳走にてはなし。却て家内で出來た珍らしきものを、打つどひて賞味するときに、眞に御馳走だと皷舌することがある。一家の主婦なるもの、また料理に於ける工夫あるを要す。さりとて此頃出版せらるゝやうなる、六ケ敷ことを書並べた料理書の方法を實行する腕前あれとはいはず。手近な處で、切方調味取合せなどに工夫するによりて、

同樣の品物でも味のちがふものになり、角な豆腐も切りやうで丸いとやら、其丸いのと四角なとで味の違ふことがある。此邊の加減を考へて工夫あるべし。內の料理は何時でも同じものだといふ中には、はや味が幾分か落ちてゐる。折角工夫すれば味よく喰べらるゝものを、まづくて我慢さすこと程、料理方の不心得はない。主婦はまた他處で御馳走になつて、其節一寸變つた料理などがあれば、よく注意しておいて、家で試みて見たり、また良人等が、他處でかく〳〵の料理があつたが味がよかつたなどいふことあれば、それを工夫して見、出來たものを、家族で評しあつて、足らぬ處を更に工夫すると、一種家庭の樂ともなるものである。また他人を家に招くに、料理屋に走るよりも、及ばずながら、主婦の御手前料理で、工夫して配膳するなどは、客をも滿足させ、また自分達の樂しみでもあるなり。

○家政百般の工夫

裁縫料理に就いての工夫の事をいさゝか述べたるが、家政百般の事務、悉く工夫を要せぬ者はない。而して其工夫の巧拙

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

の影響する處、また尠からざるものである。されば主婦たるもの、家事を處理すると、學者が科學を研究し、畫家が山水人物の配置に意を用ゐ、大工が建築方に苦心するがやうに、心を工夫を用ゐて、而も儉約にして見苦しからぬとを大主眼とすべし。況して兒童の家庭敎育の如きは、最も大なる工夫を要するものにて、敎育學理の備はりありたりとて、之に任ずる主婦等が、自身に工夫慘憺の勞を積まなければ、何の効もなきものである。凡そ何事に於ても工夫また工夫と、心を用ゐるによりて、其工夫步一步を進むる毎に、興味次第に增加し來りて、大なる愉快を與ふるものぞ。

留守中の電信と郵便

主人の留守に來た、主人宛の電信は、封を切りて、いよく大至急の用ならば、主人の出先へ向けて打ち直すべし。歸りの遲き事の知れてあるに、其電信を其儘に歸宅まで止め置くなどは、甚だよろしくなく、且つ數日以上も歸らぬに、其電信を郵便にて行先へ送り屆けるなどは、手ぬるき話で、これが爲めに主人が人に義理を欠くやうな事になるとあり。

序にいひ置くは、電信は成丈簡單を要するものではあるが、さりとて明瞭を欠いでは、意味が先方へ通ぜずして、而も時々は思はぬ間違となる事がある。一音信の處は二音信になりても、よく通ずるやうにすべし。電信料の儉約より、急報が却て遲報になり、郵便の方が、ましな位になる仕末も尠からない。電信文の間違で可笑しな話は、近頃さる地方に新婦を迎へたものがあつて、其新婦が或時里歸りをして、豫定の日數が過ても歸つて來ぬので、新郎は氣遣ひになつて電信で事情を問合せると、其返電に

ミステテカヘレヌ

とあつたので、この薄情婦と大に腹を立てた。然るに數日の後新婦は嬉々として歸つて來た。新郎は立腹まぎれに詰問すると、里方の地に洪水があつて、旅行が出來ぬから

ミヅデタカヘレヌ

と電信をかけた積であつたといふ。濁を打たずに字數の節減をしたので、不思議の間違となつたのであつた。

また主人の他行中に來た郵便は、出先へ送り屆けると同時に、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

葉書なら大低用向の知れることであるから、急用かまたは案内のやうなものなれば、留守宅として差出人へよろしく謝言をいひやるべし。また書面に急用など側書したるものは、同じく、不在中のよしを差出人に斷るべし。しからば事情を知らぬ差出人をして、何故に返事が遲きかなど、不平を溢さしむることなかるべし。

主人の信用は一家に關係するものなれば、主婦たるものよろしく注意して、何事にも主人の信用を落さぬやう、主人が忙しき中の手落は、出來る丈之を拾ひて、義理を濟ますべきことなるぞかし。

角筈衛生園（口繪參照）

外國には、サニタリー若しくはハウス、オヴ、レカヴアリーなど稱へて、病前病後者の保養の爲、衛生園なるものゝ設尠からず。我國にては未た其例なかりしに、故ツル ー主人之を患へて、日本に遺す我一生の事業として、東京新宿角筈村

獨立女學校の右隣に、高燥閑靜の地を卜し、多くの資金を投じて、圖に示すが如き、壯大なる結構を起され、之を角筈衛生園と名づけられしが、功成りて幾ならす、而も未だ開園の運びに至らざりしに、夫人は永眠に就き、爾來、遺業半途に絶えなんとするを嘆じて、今回數名の婦人の熱心なる奔走により、ドクトル阿見ケイ子を園主として、去月二十七日其開園式を擧げたり。なほ遠からす官允を得て、患者の入園を許諾すといふ。元來我國には、衛生園の組織其例なきとにて、其筋にては之を病院と見做し、成規の手續を履行すべしとあるによりて、婦人小兒科病院の稱を以て開園せらるべしと雖も、其本旨によりて、依然、病前病後患者の保養を目的とし、而して入園者は婦人に限り、また當分諸種傳染病患者を謝絶すといふ。

園は万事病院風を脱して家族風を旨とし、人毎に一室を供給し、又衛生に適し滋養に富み、且つ新鮮なる和洋食物を調進し、治療法としては、歐米諸國に行はるゝ摩擦法及び滋養油塗擦法等を施して健康力の恢復を催進し、また最近の發明にかゝる「エレクトルポイズ」療法をも行ふよし。又患者は園醫の治療を受くるとも、または各自所望の主治醫を招聘するを

の治療を受くるとも、または各自所望の主治醫を招待するとも、各自の隨意なり。入園料は食料及室料共に一日一圓外に藥價を要す。病前病後の婦人方の、遠く家を離れて轉地もならざる場合の保養場には、此衞生園は至極適當なるべく、而して角筈の地位風景また衞生に宜し。

衞生園の所在は東京府下南豐島郡淀橋町元角筈村百〇二番地にして、新宿停車場を隔る數町、淀橋町筋左に入る處なり。

犯罪に關する家庭教育の影響

（大日本婦人教育會に於ける原胤昭氏演説の大要）

◎母の我儘　母自ら我身の思ふ儘を行ひ、他を顧ることなく、食物衣物皆自己の嗜好を先として、無遠慮なる所行を以て常とするときは、子女また之に倣ひて氣隨氣儘のものとなる。幼者の頑是なきと我儘とは自ら其別あり。無遠慮我儘と云ふ中にも、自他所有の區別を紛雜ならしむるは甚だ害あり。例へば子供が遊戲の興にて、近隣の所有に屬する箱小鉢、或は竹木を携來り、我が嗜好の儘に遊戲の具に供するを、母之を見て我儘となし、無遠慮となし、笑語の間に輕々看過し、且つ之に教ふるに、爾の所有終らば竊に返し置けと。或は母自ら之を無斷に返し而して事了れりとなすとあり。又は兄弟姉妹或は婢僕の所有物品を其持主の不在を窺ひ、携へ出して翫弄するを、母之を默許し、且教ふるに、持主の譴責を免るるために時を計り、元の形になして納付し、決して其形を告ぐる勿れと。是等の所爲を細に觀じ來れば、之を正に他人の財産を侵害するものなり、語を換れば、物品を竊取するとを倫逸せしむるものなり。惡行發念の習慣を養成するものなり。犯罪人の行爲には實にかゝる慣行を見るとと多きなり。

◎母の虛僞　母自ら子に對して約束を守らず、賞罰時によりて變じて、子をして母を信用せしめず、虛僞と眞實との區別を亂すは甚だ有害なり。又父母自ら虛僞を搆へて子を敎へ、病と僞りて用を避け、不在と僞りて來客を辭し、或は母自ら父を欺き、或は父に隱して子に物品を與ふる等の事あり。此に至れば、子は虛僞を以て至極便利なるもの、自己に利益あるものと思認し、虛僞を以て罪惡なりと觀念せざるの習慣を養成す。犯罪人は、凡て自己の損得利害に拘らず、虛僞を行ふ性あり。

◎母の無勘定　母の家政を亂り、金錢の收支明確ならざるも、たとひ端錢なりとも之を疏漏にするとは、子をして金を竊むの初歩を學ばしむるに等し。素より其初は五厘一錢の事なれば、母も意に介せず打ち棄ておくより、度重なりて、金錢使用の便利を覺えて、之を得んとを欲し、遂に術を案じ、法を究めて竊取をなすに至る。

以上の提領を事實によりて證すれば

曾て一人の囚徒あり、罪科は强竊盜にして、刑罰は有期徒刑十二年なりき。この者の犯罪の公認せられしは甫めて十三歲の時なり。其時父不圖彼が本箱の中に若干金あるを發見して大に驚き、之を嚴酷に詰責して、遂に家より放ち、遠き親戚の許に預けたるが、彼は十三歲の日までに既に罪業に罪業を重ね來りしものなれば、父の嚴責も之を意とせず、爾來數回の犯罪を搆へたり。而して此者の犯罪の素因を察するに、大に其家庭に存するものあり。父は士族にして資産に乏しからず、官位また高し。才學ありしも性頗る短氣、殊に大酒を嗜み、素行脩らず。實母は彼が三歲の時に亡して、繼母は甚だ愚昧なりき。彼は幼時の家計頗る豐にして、多くの出入工商は諂諛を事とし、召使共は彼を氣隨ならしめしより、兩親の物品も、他人の物件も區別せず勝手に持ちあつかひ、如斯にして生長したり。また愚昧の繼母は、過激なる父に仕へ難きより、虛僞詐辨を以て、父の勸心を求めしより、彼も亦父に隱し、母を欺くとを常とするに至りたり。繼母はまた家政に拙なるが故に、父自ら之に任ぜしに、父は酒癖の爲めに、金錢の收支等に締なくて之を亂出し、諸事一向に埒なきゆゑ、彼は物心を覺えたる頃より、屢ば父母の手許を窺ひ、金錢を擢み出し、又は父の醉倒に乘じて、懷中を探りて金錢を竊取し、又は母の放埒にして散出する金錢を拾ひなどして、かくて嗜好物を購ふを事したりと。如斯の性次第に增長して、彼は遂に大惡人となりたるなりといふ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

講義

兒童の神學思想

久津見息忠

兒童を任意ならしめて、而して、或倫理上の問題を提出し、其答を徵し、以てその倫理思想の如何なるかを伺ふは、兒童研究上に取りて、一の重要なる事件なり。之に次で、兒童の宗敎心、幷に神學思想を問ふも、亦極て要用なる事件なり。是等の事に關しては、拙著『兒童研究』中に說きたれば、今重ねて之を云はず。今爰に云はんとする事は、北米カリホルニヤ洲に於て、其洲の兒童少年の神學思想の如何なるやを知らんと欲し、同洲の各學校に天國、地獄、神、死、天使、惡魔等に關したる問題を提出し、六歲より二十歲に至る兒童少年の答案、一千九十一通を得たりし事に關するものなり。

其の提出せられたる問題は、

神はいづれにありや。何事を爲すものなりや。何故に吾等は之を見ざるや。
人は何故に死するや。死していづれに行くや。
天國はいづれにありや。人は天國へ上り得べきや、人は天國にて何事をなすや。兒童は天國にもありや。
人は何を以て地獄へ行かざるべからざるや。之に行くを好むものありや。
天使は何事をなすものなりや。
惡魔は何故に恐ろしきや。彼等は何事をなすや。
祈禱は何故に之をなすや。何の爲に祈禱するものなりや。
クリスマスは何故に之を祝ふや。敎會には何故に行くなりや。

等にして、その答案千九十一通を撿したるに、「カトリック」、「メソヂスト」、「プレスビテリヤン」、「ユニバーサリスト」、「キリスチヤン、サイヤンチスト」、「モールモン」、「バプチスト」、「アドバーチスト」等、其信仰の異なること、自から紙上に現はれたるのみならず、一二を除くの外は、熱心も亦現はれたりと云ふ。

此の答案は素より千有餘の多數なれば、その云ふ所各々同じ

きを得ずと雖、其の趣旨は自から相同じきものあり。神學思想の中央と云へば、神なることと爭ふべからざる所なれば、先是等の兒童少年が、神を如何に理解したるやを伺はん。彼等の中には、神の形容を不明の中に置けるものあり。されど、半數以上は大なる善人とし、中にはその足を地に就け、手を上ぐれば、雲に達すと記し、又は六手、六足、六眼の人なりと云ひ、又は多くの肢躰ありて、空に滿てる巨大のものなりと書せるものありたり。扨て概して、長く白髯を垂らし、白衣を纏ひたる老人なりと云ひ、中には身に翼を有し、頭に王冠を戴けりと記せるもあり。斯の性情は概して、善且慈愛なりとし、稀に嚴酷なりと云へるものあり。されど、多くは之を不明の中に置けり。

神はいづれにありやとの問に對しては、多くは唯或る所にありて、或る事を爲すと云ひ、又は何事をもなし、何事をも知ると云ふと雖、遍在と云へる思想は、兒童等には理解し得ざる所なるが如く、一も此の思想を云へるものなし。之に反して、全智と云へる事は、兒童等の容易に解し得る所なるが如く、神は我爲す事を悉く見、我云ふ事を悉く聞く。譬へ家の中にありたりとも、と云ひ、又譬へば鐵にても、鋼鐵にても、「ガラス」にても、木にても、何にても、少しの違ひもなく、神は見通しにするものなりと云へるがあり。而して、多くは神は兒童等を監視するものにて、その惡事を記錄すと感ぜるが如し。又全能と云へる事も、多くの兒童の云へる所なり。されど、多くは有形の事實を以て證明せり。十二歲なる一女子は、神は時々地震を搖らしめ給ふと云へり。神は世界を統御し、万物を生育せしむと云へる答をなせしは、幾んど百分の五のみ、十歲の一童子は、熱心に神は世界を監督するものなりと云へり。

基督と神との關係に至りては、之を記したるもの、甚だ稀れなるのみならず、その關係を轉倒せるもの四分の一に及べり。曰く神は基督の子なりと。三位一躰の事は、此の千九十一通の中、唯二人の兒童の說けるあるのみ。又基督を吾等の救主なりとしたるは、僅に二十五兒ありたるのみ。

天國と云へる事は、十二歲以上のものにても、容易に理解せられざるが如く、改良せられたる世界と云へるが多く、五百人の兒童は空の中なりと云ひ、雲の中なりと云ひ、又上なり

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

と云へり。次に大抵は善き所。又は神のいます所と云へり。而して、世界の中にありと云ひ、吾等に超越したる所なりと云ひ或る星なりと云ひ、東にありと云ひ。又は甚だ遠ければ、風船にても行かれぬ所なりなど云へるは、甚だ少數者なり。天國にあるものに就ては、四百八十二人は天使を云ひ、三百六十七人は神を云ひ、四百十二人は救世者を云ひ、六十四人は基督を云ひ、二三の聖者、天狗、未だ生れざる小兒を云へるものあり。又天國は美しき場所なりと云へるが多く、中には市街、宮殿、美屋、公園なりと記せるがあり。而して、市街は黄金にて造られ、公園、家屋、道路皆黄金なりと記せしもあり。その中の一兒は、天使は黄金のパンを喰ふと書せり。一般に救世者と天使とを同一視するが如く、之を翼ありて、白く光れる衣を着けたる人なりともせるは三百四十六、又之を女子なりと云へるも少なからず。中には仙女なり、鳥なり、幽靈なり、小兒なりと云へるもあり。天使の爲す所に至りては、多くは之を知らずと云へり。或は飛び廻り、輪を回し、神を賛美すと云ひ、或は神の助をなすと云ひ、或は神を助け、又人を助くと云ひ、或は死せる靈魂を天國に伴ひ、小兒を世界に連れ來ると云ひ、天使の事業あるを云へるに反して、何事をも爲さずと云へるもあり。

惡魔、幷にその住所の事に至りては、天使の事よりも、兒童の說きがたき所なるが如し。左れど、その答へし所に至りては、多くは一致せり、一兒は曰く、惡魔は人の如き頭を有し、長き鈎鼻にして、その頤は尖り、牛の耳と角とを有し、身躰は人と同じけれども、一足は牛の足なり。三つに裂けたる尾の先に各々丸あるを垂らし、三叉の鎗を携ふと。而して、時に黒くなり、時に赤くなると云へるもあり。又或る兒は、之を天使の墮落したるなりと云ひ、或る兒は蝮なりと云へり。又その魔力に關しても、人を惑はし、人を殺し、又之を燒くと云ひ、或は兒童を奪ひ去ると云へり。されども、一般に詳細の答をなし居るものなし。

地獄と云へる事に就ても、亦惡魔と同じく、詳細の答はなし。唯世界の下にして火の燃えたる所なりと云へるほどに止まる、尤も或兒は之に暗黑毒蛇と云へる事を加へたるがあり。されど地獄、又は惡魔と云へる事に就ては、此の答案中、之に答へたるもの少なく、就中十歳以上の兒童は幾んど之を云

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ひたるものなし。
以上は唯此の諸答案中に現れたる大躰の思想を摘記せるに過ぎずと雖、亦以て兒童の神學の、果して如何なるかを伺ふに足らん。即ちその神學思想は概ね漠然にして、正當に教育せられたるを見ず。又自然現象と神學上の思想(神天國天子等)との連絡あるを見ること稀なり。唯わづかに神は雲の如く、惡魔は煙の如しと云ひ、又は雲は天國を陰くすと云へるもの、二三あるのみ。

されども、教育者と云ふ側より見るときは、是等の諸答案に現れたる思想に依り、その智力、感情の進歩の程度の如何を伺ひ得て、其の便宜たるものなきにあらざるが如し。今尚少しく之を説きて、教育家の參考に供せん。

此の答案全躰につきて觀察するに、六歳の兒にありては、總て母又は教師より教へられたることを、そのまゝに答へて、一も疑問を提出することなく、又その自己の思想、經驗に照らして、以上の神學問題を説かんとするが如きことなし。而して、天國とは、その遊戯場にして、神は父の如く、天使はその遊友達、惡魔は惡童、地獄は暗く恐しき所なるに過ぎず。是智力、殊には推理心の、未だ毫も開發せられざるを證するにあらずや。

又七歳より十歳の兒にありては、適々漠然たる疑問を提出するのみにて、概して、六歳の兒と大差なしと雖、十歳以上に至りては、心意に疑團を生じたるが如く、往々少しく力ある疑問を提出したるを見る。此の時よりして、自己の經驗學問に照らして、以上の問題を推理せんとする形迹を現し來るに似たり。是批評的思想發生の初にして、十三四に達すれば、尤もその形迹の著顯なるものあり。之より終生此の思想の作用を持續するものなるが如し。但し各兒一様に然るにはあらず。その間に遲速あること論なし。されば十一歳の兒の答案と十三歳の兒のとを執りて、之を比較すれば、その間に大ひなる差(即ち批評的思想の差)あるを認め得るなり。今その一二を示すべし。

十一二の兒は幾ど一般に、余は思ふ、余は斯く聞きたり、余の思ふ所にては、聖書に云く、日曜學校にて教へられたる所にては、など云ひ、而して、以上の神學思想を述べたれども、十三四の少年に至りては、余等の想像する所にては、余の信

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

する所を以てすれば、又は余は疑ふなど云へり。十三歳の一少女の答案に云ふ。

「天國若し人の常に云ふ如く、幸福なる所ならんには、妾は必ず美麗なる所ならざるを得ざるべしと思ふ。所を美ならしむるもの丶一は、花なり。されば、妾は又天國には花の愛らしきもの充てるならんと思へり。天國に行ける人は白き衣を着け、翼を有する天使となると云へり。されど、妾は未だ曾て之を見ず、又如何にして、之を見得べきかも、亦知ることなきなり。

又十四歳の一少年の答案に云ふ。

余は思ふ、人若し善ならば、死したる後、その靈魂天に上り、又悪ならば、地獄に落つと云ふは甚だ奇異の事なりと。何となれば、余は未だ曾て、善人の死して、その靈魂の天に上りたるを見ず、人の死するや、毫も是等のことを知るべきにあらざればなり。

是等は經驗と神學思想との一致を謀らんとする。普通の批評的思想に出でたるものにして、此の年齢の少年、少女に、推理心の發現著るきを知るべきにあらずや。

十五歳以上の少年少女に至りては、更に又此の批評的思想の進歩を見る。是等のもの丶此の答案を述ぶるを見るに。余は斯く信ぜんとす、又は幼少の時は斯く信じたりきなど云へり。而して、その現在の信仰を云ふに當りては、具象的の事に附て疑問すること少く、多く抽象的の文字を用ゐ。神を説明するにも、絶大、大精神と云ひ、天國を形容して至善至美の境と云ひ、天使を神聖なる精神、悪魔を世界の大魔力と云ふが如き、これなり。是明に此の年齢に達したるときより、抽象概念力の發達あるを證するものならずや。されど、斯く抽象文字を使用せるに拘らず、一般に觀察すれば、十五歳より十八歳の間にありては、多くは神學上の問題に注意することなきが如き迹ありとす。

又此の神學思想の試驗は、兒童少年が善悪と云へる問題を、如何に見たるかを明にするに足るものあるに似たり。多くの兒童少年は天國に至らんと欲すれば、善ならざるべからず、善ならざれば地獄に落つべし、而も特に徳不徳と云ふことを重大なるものと見たるの迹、その答案中に歴然たればなり。善又は徳と云へることを解して、神に從ふなり、神を信ずる

なり、神を愛するなり、父母に從ひ、眞を語るなりとしたるもの多く、十四歳の一少年は、人は世界に善眞と、平和

何となれば、これ當代の文學美術の

なり。神を愛するなり、父母に從ひ、眞を語るなりとしたるもの多く、十四歳の一少年は、人は世界に善良と、平和とを保たざるべからずと述べ、十歳の童子は、神は兒に父母に從ひ、その云ふことを聽き、而して、市街にて會ふ人々に向ひて、丁寧親切ならんことを望み給ふと云へり。又善人なるもの、如何なるかを說きて、敎會に入り。敎會を助け、貧人を救ひ、以て神の仕事を助くる人なりとし、斯かる人は天國へ行くべしとなせるもあり。以て善惡、德不德と云へる思想の、神學思想と相伴ふを伺ふべきなり。

地獄、惡魔等の形容は、多くは「ポンチ」その他の畫より知りたるもの多きが如し。されば、十四五年以上の少年少女には、地獄惡魔の存在を信せざるが多し。

以上はカリホルニヤにての觀察の結果の摘要なれども、此の種の觀察試驗は、以て兒童硏究に必要にして、その敎育を益するを知るに足るものあらん。此の觀察をなせるカリホルニヤ大學の敎授バーチスはその結果を斷じて、『カリホルニヤの兒童少年は、基督敎國の人民としては、甚だ神學思想に乏しきものなり。されば、向後この種の知識を與ふるの必要あり。何となれば、これ當代の文學美術の生活を理解する基礎なればなり。…………………………學校に於ける文學、歷史、科學の諸學科は、必ずや大いなる哲學的精神を養はざるべからず。世界を理解せんとする少年の欲望をして、勇敢ならしむべきも、怯懦ならしむべからず。』と云へり。我國の兒童少年は宗敎に冷淡なる敎育、家庭に生活するもの多ければ、世界、幷に人生と云へる事に關しては、カリホルニヤの兒童少年にだも、若かざるべきは勿論なり。又敢て小學、中學に宗敎の敎育を入るべきにはあらずと雖、而も、人は世界と人生とを解するの知識なくては叶ひがたし。余は此の種の硏究を以て、我國の兒童少年の宗敎心、倫理思想を伺ひ、之を敎育するの方法を案ずるは、必ずや無益ならざるべきを知る也。

ふかく入りて神路のおくをたづぬれば
また上もなき峯の松かぜ　　西行

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

文武達道談

曲浦子

◎文といひまた武といふもの、いづれも百千の藝に分れてあるが、末の露、本の雫、落つれば同じ谷川の水で、其歸する處はみな一で、其樣々の形から、修練を仕上げた處で、一番悟入したものは、中々に大したものぢや。由來古人が、彼藝此藝を分けて、其奥義道を開いたものは、自分の性に適し、また情に叶ふて、一番に入り易き方面から、眞理に入つたものである。然るに今人が、徒らに形にのみ拘泥し、互に門戸を張りて、他を非難するは、即ち道なるものを知らぬからである。宗教といへども同じ事で、佛教なり、基督教なり、眞に悟を開いて道に達したものは、いづれも感嘆すべきものである。然るに分爭を宗派上に專らにするが如き輩は、迚も道の奥に達し得るものではない。

擊劍又射術のあるべき筈だ。

◎利休が茶を立つるや、耳元で不意に鐵砲の轟きがしても、杓の湯がゆるぎもして

◎莊子の庖丁が牛を割くの大伎倆は、即ち文惠君が養生を得るの悟道となつた。何事でも一の藝に達したものは實に恐るべきものである。桶屋でも、車屋でも上手のものと年功を積んだ工夫には、國政を料理する途を學ぶ所がある。大國を治むるは猶小鮮を煮るがごとしともいひて、料理番の腕前が即ち治國平天下の敎ともなる。彼等の如き賤しきものには、其工夫伎倆で、自分の心を養ふやうなる奥ゆかしき處はないが、智惠あるものゝ、之より學ぶ處は多い。聖人は芻蕘の言をも棄てざるの意も此邊にある。

◎小町や其角が雨乞の詠吟、なにがし歌人が冬に郭公を鳴かせて生命の危難を遁れたといふ話など、奇怪のやうではあるが、自分が達したる藝を以て、天地鬼神を感ぜしむるとは、強ち無いともいへぬ。これ等の俳句や歌は、即ち彼等が赤心を開いて天に訴ふるの祈禱である。祈禱だといひて、經文を稱し、禱文を唱へなくつても、これでもよろしい譯である、一休和尚が開眼供養や引導に狂歌を詠じたといふも、戯に似て、自から誠實の念の籠れるものがないとは、この如き大得道者に就いては受取れぬ。然りとすれば、この破格の供養引

人を動かすといふのも、自身の鍛錬の功が

◎釋迦

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

導共に功力のあるべき筈だ。

◎利休が茶を立つるや、耳元で不意に鐵砲の轟きがしても、杓の湯がゆるぎもしないといふのも、この得意の藝によつて、心の鍛練が出來てゐるからである。諸禮の如き、繁文縟禮の事といつて、今人は輕んずるがなれども、その繁文縟禮を以て錬り上げた魂は、膽力が備つてゐて、よしや兇刃を持つて襲ひかゝる敵でも、端然たる禮容をなせる達人を斬る事は出來ない。

◎左甚五郎の彫むだ人形が活動したとか、巨勢金岡の萩の戸に畫いた馬が夜な〳〵御壺に出でゝ萩を食つたなどいふとは、荒唐無稽の傳説に過ぎないが、さりとて、かやうな名人は、藝の奥妙な處に、鍛練の出來上つた精神があつて、其精神が、我製作物を活動せしむる位の力を有してゐたに違ひない。彼等は、神が天地人を創造された大能力に近い程の創造力を持つてゐたのだ。大教育者が、偉人物を養成し、大文學者が、ペンの先より形なくして靈魂のあるやうなる人物を創造し出すといふのも、皆鍛練の妙によりて、道に達したからである。越路太夫の浄瑠璃や、團十郎の演劇が、眞に迫りて人を動かすといふのも、自身の鍛練の功がなくては出來ぬ。

◎釋迦と迦葉とが、拈華微笑の間の悟道は、一輪の花にも道あることを教へたものであり、また弓馬の道に達したる西行法師が、花を眺めて、一段の悟りを增したのも、弓馬と櫻とに相感ずる處があつたのである。

◎日蓮上人が、龍口の難を遁れたも、佛者などは、刀刃段々壞これ佛の功德だといつてゐるなれども、こは即ち日蓮が佛道によりて修行したる膽力と精神とが、彼難に臨んで、光明を放つて、依智の三郎直重が刀は、上人の身に立て處がなかつたのだ。豐太閤が賤が嶽の合戰に、佐久間玄蕃を睨み退けたといふとも、諸種の方面よりして、工夫鍛練を仕上げた魂が、此時に赫灼と發揮して、流石の荒武者も、眼眩みてたぢろひたのであらう。泥舟先生が、空拳で槍道を演じたといふも、柳生重兵衞が、奉書一枚で槍を受けたといふも、みな形より入りて形を出て、武道の奥義に通じたからである。これ等の達人にては、藝は最早、形にあらず、器械に存せずして、其魂の上にあるのである。

◎泥舟先生が、槍術を知らぬ禪僧林瑞によりて、其槍道を磨

き上げたといひ、某僧正の茶道は、これを眞似た狸を殺したといふも、劍法のやうである。これ等に似たる逸話は古來尠からぬ事で、昔の大劍道者は、多くは禪學などを脩めてゐた。文を以て人の肺肝を貫くとも出來れば、これは劍に似たり。武を以て人の心を和げる事も出來れば、これは文に似たり。されば文武の諸藝、詮ずるに皆これ一道の躰である。文武の諸藝に達した人は、宗敎の道を悟るとが早いものである。

◎今代の文武を脩むるもの、多くは、道の心得が乏しい。つゞまり藝人に止まつてゐる、これは畢竟するに、いまだ其藝の奥に達しないで、門口で迷つてゐるからである。

泥舟先生甞て人に語りて曰く

余は某大儒にいへり、吾家に流祖傳來の秘書四卷あり。余が四方に周遊する頃は、未だ讀むを能はざりき。今日と雖も尙ほ覺束なし。君は容易に流讀せらるゝならん。自由に諳誦せらるゝとも難からんと。扨て其人悉く之を暗誦せられしとき、余は一語の問を出さん。曰く余の如く槍を遣ふとを得るかと。夫れ四書六經を讀むの儒とは、何事をいふ乎。

兒鑑

二人の朋友

さくら子

ある田舍に太郎と市松といふ二人の小兒がありました。太郎の家は、村第一等の金滿家で、田地や家畜やを澤山に持ち、下女下男も大勢召使つてゐました。されば太郎も榮華身に餘つて、立派な着物、田舍では珍らしい洋服もあり、玩具も澤山に、そして外に出るときは外國種の小馬に乘り〳〵してゐました。然るに今一人の市松といふは、御父さんは貧乏な小作人でしたから、朝も長寐をして我儘を言つて居る處か、蚤から起きて、牛を飼ふたり、馬を追ふたり、山へ落葉を掻きにいつたり、野らへ草刈に出たり、いろ〳〵忙がしいとでした。であるが、其お父さんといふは、百姓には稀な考のある人で、假令貧乏はしてゐても、市松は、近村第一等の學校に入れて勉强さすとにきめて、そして、この兒が善人になれ

は、わしは年よつてからの樂みだといひ〳〵してゐました。」
市松が初めて學校へ上つた日に、總ての生徒は、市松が穢い衣物を着て、龜裂になつて垢じみた手足をしてゐるのを嫌つて、よせ付けず、だれも〳〵『あんな汚い奴と一處になるなんて嫌なこつた。』といつて、市松が席に就かうとすると、傍にゐる小兒はツット身をかはして、向ふの端へ逃げて仕舞ふのでした。自分も、かやうの待遇をされても、最初は、一向に譯が分らなかつたが、あまり不思議に思つて、自分を見ると、己のやうな汚い着物や、垢づいた手足をしてゐるものは一人もない、成程自分は貧乏者の子だから、みんなが嫌ふのだと覺つて、急に悲しくなつて、淚がぽろ〳〵と頰をつたはつて落ちました。
然るに太郎も同級の生徒でありましたが、日頃情ぶかい性質であるからして、今市松の有樣を見て、甚だ氣の毒に思つて、ツカ〳〵と其傍に坐つて、
「君、泣き玉ふな。僕は君の傍に坐つてやるよ。此處に梨子があるの、君とり玉へ。」
市松は太郎が信切なのに、いよ〳〵泣き出しました。太郎は市松の肩に手をかけて、
「君もう泣き玉ふな、どうぞ止め玉へ。僕は君の朋友になるよ。」
太郎が親切に市松を慰めてゐますと、傍にゐた一人の意地惡が、大きな聲をして、『ヤヽ太郎君が教場で林檎など持つてゐる』と叫んだ處へ這入つて來た先生が、之を聞き付けて、太郎の林檎を奪ひ取つて、其上校則に從つて、罰として太郎を笞で打ちましたなれど、太郎は自分で、正しい事をしてゐたのだから、少しも悲しみませなんだ。大勢の子供は之を見て、クツ〳〵と笑つて、却つて之を喜ぶやうで、勉强をしてる風に、顏に本を當てゝゐて、そして空目をつかつて、太郎と市松とを見るものもあり、また互に袖を引きあつて、『一本やれたぢやないか。』などゝ囁くものもあつた。
此時からして市松は、太郎の爲めなら何でもしてやるといふ精神になつて、二人で遊んだり、また其傍に坐るときは、何よりも嬉しい感じをしてゐました。
此事があつて後、或日の事、午後に太郎は一人で家から、一里も半里もさきに遊びに出て、歸りかけた途中で、多人數の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

剪徑に出合ひました。太郎はそれとは氣がつかなかつたが、剪徑共は、太郎を見て、『あの小僧は金持の子らしいな、ちと物になりさうだぞ。森の中へ連れていつて、やつ付けろ。』と呟き合つて、中の一人がツカ／＼と太郎の傍に來て、イキナリ小脇に抱きかゝへ、手拭で猿轡を嚙まして、森の奥に連れ込み、其處で大勢かゝつて、太郎の着物をソツクリ剝ぎ取り、丸裸にして木の下に打やつた儘に、剪徑は外へ逃げてしまひました。夜にはなりますし、方角はサッぱり知れず、太郎は怖さに怖さを重ね、剪徑が居なくなつてから、聲を限りに救ひを求めましたけれども、答ふるものは、たゞ山彦ばかり。仕舞には聲も嗄れて叫ぶ事も出來なくなりました。夜風が裸の身にしみて寒いから、太郎は、草叢の中に這ひ込んで、風を僅に除けてゐました。

家では、日暮になつても太郎の歸らないので、父母は心配になり、下男共を見にやつても、一人として影ばかりでも認めて歸るものがありませんので、兩親は、最早再び可愛の太郎を此世で見る上は出來ぬのかと悲しみました。近村までも殘る限なく探索をなし、もしやと河の流をあさつたり、また逢ふ人毎に尋ねても、かいもく知れず、勿論市松には第一番に尋ねたなれど、廣場の隅で『左樣なら』をいつて別れたから逢はないといふので、穿鑿の手づるは、一向につかず、夜に入つて段々と暗くなつても、まだ太郎の行方は知れません。それで親友の市松は氣が氣でなく、泣きながら寢床にははいつたが、どうしても落付いて寢られず、いよ／＼悲しくなつてたまらぬので、遂に床からはね起きて、

『どうしても太郎君を尋ね出さねばならん。』

と決心して、今までは眞の暗夜であつたのに、月が東の山の端から澄みのぼりて、四方が明くなつたので、市松は一入氣が勇んで、いよ／＼探索に出掛けました。

市松は池といふ池、森といふ森、小さな叢までも搔き分けて、殘す隈なく穿鑿をしましたなれども、太郎の影は見えず、また手がゝりもありません。夜もはや十二時といふ時分に市松は墓場まで辿り着きました。大低の小兒なら、夜中に墓場に來るなんど、怖がつて迚も出來ませぬが、市松は氣を張り詰めてゐるので、少しも臆せず、其處此處を探つて、『太郎君、太郎君』と呼びつゞけてゐまするど、不意に一つの石塔

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

の後から、妙な聲で『オーイ』と返辭をしたものがありました。もしやそれかと、市松は傍によつて見ますと、いつも子供等が「音」つて呼んでる馬鹿の兒でした。外の子供等がこの音をいぢめたりすると、市松が之を庇つてやるので、市松が、

『オイ音や、市松ぢや、覺えてゐるか。』

といつたれば、馬鹿ながら、市松の顏は夜でも認めがついたと見えて、

『おひはぎ、つれてつた。ゆくない、ゆくない。』

と譯の分らぬことを喋るので、市松はやつとの事で、太郎の在處を探してゐることを音に呑込ませて、そして太郎は惡漢に連れて行かれたのらしく、その樣子を音が知つてゐさうなので、促し立てゝ案内をさせて森に來て、中へ〳〵と分け入りますと、不圖唸き聲がするので、市松は聲の來る方角を聞き澄して、荊の中を押し分け〳〵、手や顏を荊がきだらけにして、『太郎君、太郎君』と聲はり上げて呼びまするると、向ふで、かすかな聲で、『此處だ、此處だ』と返辭をする故、周章たゞしく、其處にいつて見ますと、哀れなり、太郎は、半死半生の態で倒れてゐました。市松は急ぎ太郎を助け起して、自分の着物を脫いで着せ、音と二人で森の外に導き出して、家路をさして歸りました。

家では、手に手を盡しても行方が知れぬので、太郎は河にでも落ちて死んだものと斷念してゐました所へ、市松と馬鹿の音とが、色靑ざめた太郎を連れて歸つて來たので、母親は嬉しさに言も出ず、太郎に抱きついて一時は氣絕の躰でした。父親の喜びも一方でなく、我子の恩人の市松を抱きしめて有難涙に咽びました。そして市松にかういひました。

『余は太郎の死骸でも探し出したものには、褒美に百圓やると約束したから。今お前に其百圓を上げるよ。そして又余が家での第一等の馬も添へて上げやう。』

市松は答へて、

『何故それを被下のですか。』

『何故といつて、そりや太郎を助け手柄があるから。』

『イヽエそれは決して貰ひません。私が初めて學校へ上つた時に、太郎君が信切にして被下つた事、どうしても忘られません。此位な御恩報じは當り前です。』

とキッパリ答へて、誰がどう勸めましても市松は決して、馬

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

や金やを受けませなんだ。此時からといふものは、太郎と市松とは、至極仲好き友達となりまして、成長の後に、太郎は大變の金滿家になりまして、市松は其家の番頭となり、兩人共に榮えました、めでたし〳〵。

隨感

○人互ひに羨む

紳商あり、投機の業はかく〳〵しからず、屢は京濱間を往來して救ひをもとむ。尙ほ舊の如く上等滊車に乘じ乍ら、懊惱として窓外に苦吟す。時に、農夫の朴々然として耕耘に餘念なきを見て、羨愁やまず、舌を鼓して曰く、嗚呼樂しい哉、農家の事、もし此の回の難事を免れ得ば、直ちに歸農せん、農業は是れ至樂の業ならめと。

農夫、耕耘の手を休めて、立つて望んで曰く、人間生れて一世を土塊に委す、悲しき哉、かの豪商、京濱間を往來する幾回ぞや、而して常に上等室にあり、吾等もし一日彼等の如くんば、如何程の幸福ぞやと。

○愛の神秘

奇しくも亦た神々しきは愛と云ふ心情にぞありける。此の心をもてすれば、草木も青々と繁り、感謝して其の裝ひを見すが如し。此の心をもてすれば、鳥も來鳴きて傍ぢかく戯むれ、吾を主として命を聞かんとするに似たる。五畜は言ふも愚なり、たゞに吾が愛を得んとして、號泣して哀訴す、何等可憐ぞや。誰か言ふ人世鬼の如しと。もし先づ愛の心をもて之に臨めば、人として良からざるはなし。偶ま吾につらく當る人のあるとき、仔細に其の由緣を考ふれば、吾に愛なしとて責むるにてありけり。愛をもて待すれば、人皆な慈眼を開きて我をながめ、事々に吾が身の上を案じたまふ。吾は世に悪人ありと云ふことを信じがたし。たとひ兇悪の名ある暴人なりとも、愛をもて纏はんに、彼は決して反くことあるまじ。吾に愛と云ふ心の滿ち滿ちて、其情の溢れんとき、吾乍ら吾が一心の麗しきに感じ、また世の人の總べて美くしきことを感ず。感涙にむせびあへず、情懐の喜悅滿足にたへぬは、人

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

の相愛する美談を聞ける時なり。夫れ、眇たる天地の孤舟、宏濶なる宇宙に一身を寓して、吾は數ふるにも足らぬものなり。然るに尚ほ愛の消息に感通する斯の如し。天地圓滿の大御心に充ちあふるゝ尊とき御旨の一斑を推すると亦た難きにあらざる也。

○人生は是れ賽の河原

賽の河原に群れ遊ぶ子供多くあり、小石を拾ひて五重の塔を積み上ぐ。稍や成らんとするとき、赤鬼、黒鬼ども來りて、之を倒す。頑是なき子等尚ほ休まず、再たび築き上れば、鬼ども復た來りて之を倒す。

孟子曰く、大人は小兒の心を失はざるもの也と。救主耶蘇曰く、汝曹孩提の如くならずば、天國に入ると能はずと。夫、神佛に供ふべき寶塔を築くは、無邪不用意の子供心によりて也。之を毀つものは即はち魔鬼の心なり。魔鬼何處より來ると言ふ。但だ人間利己私慾、事を好むの邪心より出現し來る。

○さみしき妻に告ぐ

武藏野のをみなへし數へ盡すべくもあらず、大和の男山幾本の木々や茂るらん。世上の男女夫れ幾十億ぞや。生を此の間に享けて、數を濱の眞砂に托し乍ら、あやしくも彼方一人、此方只一人の縁を結びて、終生の契りを未來の際みに迄で及ぼず、抑も之を偶然と言はんや。かほど迄の縁にあひ乍ら、末遂ぐるともせで不幸短命に先だつもあり。或ひは義理に驅られて悲しき別れを爲すもあり。只だ心に思ふのみにて打出すともせず、不燃の火に胸のみこがすもあるべし。但だ此等は、事の已みがたきものと言へれど、現に伉儷のかたらひを結び乍ら、心の緒も解かで、只だ徒らに結び付けらるゝ人こそ哀れなれ。然りと雖ども、天縁もと卒爾ならず、既に命ぜられて夫婦の名を採り、一生の同伴を約す。心を開かざるは、歩みの戸を閉づるなり。行路何ぞ難きや。他し心は人の尤とも恥づべき所、況してや、貞德を主とすべき女に於て斷じて容赦すべき限りにあらず。先づ愛せられて而して後ち心を開くは、女にありがちの天性とは言へど、既に伉儷の契りを結

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

べる人に於て尚ほ此の餘裕を許すべきにあらず。やさしくも愛らしき女の事なれば、須からく天運を觀じて、神の慈悲を信すべし。人生もと偶然の配劑に出でず、必らずや嚴然たる攝理ありと信じて、其眞人を天意の寓せし賜物と認め、先づ二念なきの貞愛を開くべし。何處の地も深く穿てば清水あり。人の心は叩けば必らず愛あり。御身先づ赤心を捧げん亦、男子何すれぞ遂に感泣せざるとやあらん。

○天地各様のけしき

情緒千百、もとより單一ならず。何れの緒より引寄するも、皆な夫々の賜物を崇むる。天地宏漠、宇宙の寶珠も亦た盡くるなき哉。

美の情よりすれば、山川國土、麗しき哉。四時百般の景色、趣味に適はずと云ふものなし。ゆく〳〵行吟して、其の風雅に樂しめば、誰か人生を難しと云ふ。十方の世界皆な美の顯現にはあらずや。もしまた眞理を樂しむときは、微より巨大に至り、俗より聖化に及ぼす迄で、何れか周匝微妙の理わりなきものやあらん。審かに、其因果を講究すれば、歩々皆な緊實の基礎あり。一塵の芥、半腐の塊、惣て至大の妙理を存し、之を究めて愉快ならざるはなし。若しまた、宗敎を樂しむときは、天地皆な慈相悲眼を催ふす、物として博愛至仁ならざるなし。鳥は其恩を歌ひ、泉は其情にむせぶ。山、泰然として禪定の心地を示し、流れは融通自在の活機を學ぶ。人相見て佳らざるなく、戀愛、慈愛に其の光明をもらす、美くしきぞ、床しきぞ、樂しきぞ、言はん方なく切なり。

若し夫れ英雄の一代に鑑みれば、嚴乎として秋霜の烈あり。貞婦の眞心に胸を寄すれば、脈々たる赤情のひゞきを聞く。仙骨のかぐはしきは更にも言はず、童兒の無邪無心なる躰の就中うらやましき哉。たとひ醜婦の飾りを曲れりとすとも、其の温かき誠實を推量すれば、涙の落つるとあり。姦曲の徒輩といへども、心をこめて情を通はす思ひものゝありと聞けば、亦た可憐の心地せり。

嗚呼、天、何の大量ぞ、人に千種万様の情感を賦與し、其の好むまゝに引出させて、思ひの儘に徳澤に沐せしむ。顧て吾に此の情感の與へられしを謝せんとすれば、亦た何の遑ありてか、厭善愁惡の澁面をかなす可き。夫れ吾等は平凡にし

て一徹なり、もとより、八面玲瓏の器鏡にあらず、何すれぞ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

て一徹なり、もとより、八面玲瓏の器鏡にあらず、何すれぞ能く十方の美を各様に映悟せんや。左れど、古來それ〲の天才あり、皆な自得せる方面に其の直覺を發揮し、或は歌ひ、或は説法し、或は論明して、もつて吾等に示す。吾等其の形跡を尋ぬれば、各種の光明皆な一心に映じ來るにあらずや。吾等に眼あるを樂しむ、吾等の史を讀むことを得るを感謝す、古の先覺の今尙ほ傳紀せらるゝを喜こぶ。吾等之によりて天地宏漠の情狀を穿鑿しつゝあれば、何ぞ亦た人生のせちがらきを觀じて、吾生の短きことを憶はんや。年々、日々、たゞ學の及ばざるを憾むことあるのみ。

主義といひ、道と謂ひて「必ず是耳」と熱執斷定するは、多年余が好まざる處也。單に道と言ふも、道に大小あり、厚薄あり、濃淡あり。其一を揚げて、他の悉皆を擯斥するは、余が生平爲さゞる處なり。人あり來つて、囂々然として、吾を責むる時、余は「左もあらん」と答へ置きて爭ふことなし。從容に精に考慮して、其大小を推較し、此上にも更に上あるべしと想念する時は快味禁じがたし。もし吾が守るところ、大道にてあらば、他の小道の責は責として放置すとも可ならずや。智慧の研究は、棺の葢はるゝ時に初めて了るべし。常に絕せずして此覺悟を所有するの實樂は何にかたとへん。海舟先生談話

雜録

靜？動？

馬陵

春陽の煕々たるは、自然界活動の象にして、秋陰寂寥、滿目蕭條たる、是れ天地靜默の躰にあらずや。或は以て、軟草育養の慈雨となり、或は以て、枯葉凋落の嚴霜となる。其花に、其月に、以て櫻雲千里の美觀となり、以て月高八百八島の壯觀となる。想ふに、婉約、優美なる活動の景象は、青帝の司どる所にして、緊肅淸美なる靜默の躰は、白帝の宰る所なり。一は以て嬌容滴る兒女子の、新に校賞を得たるが如き喜樣あり、一は以て淸瘦なる老僧の、肅然默禱するが如し。春景、秋色、已に此の如し。若夫れ、東天の微光を漏すや、天地の將に醒めんとするの時にして、斜陽已に西山に舂くは、其の漸く眠に就かんとするの時なり。已に然り、人界の老少ある、亦如此乎。少は以て、其活動界を前に望み、老は以て

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

其活動界を後に顧みる。畢竟靜より出でゝ動となり、動亦靜に歸す。靜と動を、錯綜、融和して、物界調ひ、人界和す。於是乎、物理の學は詰げていふ、宇宙間の現象、靜默の理に外ならずと。靜か、動か、あはれ、そが主宰者こそ、限なく貴けれ。

婦人の外交家

岡田竹澳

國の内外と時の古今とを論せず、婦人が國家の重大なる事件に關し或は國民の緊急問題に就き是れを所理するに當り、與つて大に力ありたる場合は其例に乏しからず。見よ男子が遲鈍なる方法を以て、長日月の研究を積み、經驗を累ねたる末、尙ほ且つ失敗する所のものを、婦人は天禀の怜悧と、機敏とを以て容易く成効したる場合の多きにあらずや。

古來外交上の事件、特に平和條約の締結の如き、或は戰爭中裁の如き事件に關し、婦人が内部の斡旋に由り、其結果を見たるもの實に尠しとせず。然れども全然婦人の手になりた

るものは、獨り一千五百二十九年の「カムブレー」條約なりとす。此の條約は歐洲近代史中最も必要なる條約の一にして、實に二人の婦人が專ら談判の衝に當り、遂に締結の運に至りたるものなり。今少しく其由來を述べんに、是れより曩き獨帝「チャールス」第五世と、佛王「フランシス」第一世との間に、戰爭絕えず、從つて歐洲の戰亂息む時なかりしが、「カムブレー」條約は獨佛の戰爭を中止し、再び歐洲の靜謐を見るに至らしめたり。此の條約は貴女の條約として世人の夙に熟知する所のものにして、二人の婦人とは、則ち獨帝の叔母なる「オホストリヤ」の「マーガレット」女と佛王の母「サボイ」の「ルイス」女となり。此の二女は世の有髯男子をして後に瞠若たらしむる有爲の外交家なりと謂つ可し。

英國に於て、殆んど一世紀の間、彼の奴隷問題は、學者政治家の未決問題として、甲論乙駁、紛々擾々遂に歸着する所を知らず。國内騷然たりし時に當り、簡明なる語句を以て此難問題に對し、容易く解釋を與へたるものは實に「エリザベス、ハイリック」女なりき。同女は「クエーカー」宗の信者なりしが曰はく、直ちに無條件にて奴隷を解放す可しと。然るに

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

當時英國の學者政治家は躊躇逡巡し、此の問題に對し同女の如く、一刀兩斷の裁決を下すこと能はざりしが、英國の大勢は遂に奴隷の解放を是認し、其後七年を經て、始めて奴隷の解放を見るに至れり。「ハイリック」女の慧眼は當年男子の及ぶ所に非らざりき。

一千七百七十六年米國、英國の羈束を脱して、獨立を布告して、憲法の制定をなすや、「アビゲトル、アダムス」女、「マーシーオチス」女、「ハナ、リー」女等は、夙に奴隷制度の弊害を悟りて、憲法制定者に迫り、今日に於て、斷然奴隷の制度を廢止す可き旨を勸告したり。然るに當時米國の憲法制定者は女子の言取るに足らずとなし、此の勸告を無視せしかば、後日果して臍を噬むの結果を來たし、遂に南北戰爭の慘害を見るに至れり。婦人の先見驚くに堪へたり。

近着の米國新聞は報じて曰く、「ブラジル」駐在の新任米國公使「コンガー」氏は、己れの娘「ローラ、コンガー」孃を以て、公使秘書官に任命せりと。果して然らば婦人が外交官たるの地位を得たるものにして、婦人が全く男子の領內へ侵入したる實例として見るべきなり。從來秘書官の職は、男子の專有に歸したる有樣なりしが、今や婦人の秘書官を外交官中に見るに至れるは、婦人の爲に祝せざるを得ず。而して「コンガー」氏は曩きに一千八百九十一年より、同九十三年まで「ブラジル」の公使たりしが、三年の在職中適任者たるの譽を博したる人なり。「ローラ、コンガー」孃は米國アイオア州に生れ、紐育にて教育を受けたる年少有爲の婦人にして、前年父と共に「ブラジル」に在るや、父を助けて外交上の事務に當り、自から葡萄牙語に熟達し外交上の駈引を實地に學び大に得る所ありき。夫れ外交上の事務は、細微緻密の注意を要するものにして、斯る注意は、婦人の最も得意とする所なれば、婦人を以て外交官の秘書官となせしは、其當を得たるものならん。今や「コンガー」孃は、父と共に「ブラジル」の任地にあり、父を助けて外交上敏腕を奮ひつゝあれば、兩國の親交期して竢つ可しといふ。

木の葉ちる山路の石は見えねども
なほおたはるゝ駒のつま音

賴政

我が日の本

しをん

我が日の本は　何處なる　朝日に霞み　さく花の　匂ふ春べの　空なるか　否々更に　まさるらし。

我が日の本は　何處なる　夕日に照りて　もみぢ葉の　錦をさらす　野か山か　否々更に　まさるらし。

我が日の本は　何處なる　黄金の波を　打ち寄せて　千里につゞく　田の面か　否々更に　まさるらし。

我が日の本は　何處なる　雲もたゆたひ　月も日も　蔭に隠るゝ　富士の根か　否々更に　まさるらし。

我が日の本は　何處なる　ラッコのすめる　千島より　椰子の花さく　臺灣か　否々更に　まさるらし。

さらばをゝしや　しきしまの　大和男兒の　誇りなる　我が日の本は　何處なる　われに語りね　いざ聽かむ。

我が日の本は　此處に在り　四千餘万の　國民が　すめらみことの　御心を　こゝろとなせる　こゝろなり。

我が日の本は　此處に在り　正しき道を　經として　清き情を　緯として　織れる錦の　こゝろなり。

我が日の本は　此處にあり　我にたよらん　者あらば　かげに育み　わがいのち　たふれてやまん　心なり。

我が日の本は　此處にあり　國に仇する　ものあらば　燒刄の劔　ぬきつれて　たふして止まん　心なり。

げにもをゝしや　敷島の　大和男兒の　たましひは　天津御神の　たまひてし　昔ながらの　心なり。

歸郷雜賦

（但馬生野）

琴城　巖範

空見鏡中雙鬢霜、東西浪走跡茫々、偶尋三十余年夢、歸臥青山在故鄉。

四面峰巒開別天、千花千月有淸緣、金銀氣冷宜銷暑、悔我他鄉久送年。

隊々相追風起塵、街頭到處管絃頻、誰知省墓霜髭客、曾是婆娑踏月人。（俗孟蘭盆士女隊管絃鼓舞晝夜徘徊市上）

停立待君々不見、雨妨雲妬竟如何、神明山上昨霄月、却喜淸光一段多。（中秋無月前夜月色淸明故云）

綠樹丹崖夕日宜、描成秋色映淸漪、一聯句就欲題壁、沙鳥啼過姬子祠。（姬宮神社在逸川上）

播但秋山望裏晴、霜楓如染幾回縈、不知征客那邊去、一道濵車沿水行。（生野嶺不便于運輸、新開路通西嶺、眺望極佳）

山皆直立澗皆激、驚看神劒與鬼工、嵐氣漸寒衣袂濕、不知身在白雲中（白口街地勢高一里、若林鑛山在焉途中山水絕奇）

時　文

◎冐頓　　三宅雪嶺著　　政敎社版

支那北方の雄匈奴の史跡未だ詳ならずして、而して彼は實に世界歷史中より、必ずしも忘却すべからざる一怪物なり。三宅雪嶺氏、同志と東大陸人豪傳編述を企つるや自ら撰んで、匈奴蒙古の人豪を傳へんとして、其第一に、匈奴をして初めて南方に勢力あるに至らしめたる、英傑冐頓をものす。著者が靈耳の眼眸。よく古來支那北方の大患たる匈奴の狀勢を觀取し、冐頓の漢高を白登山に苦しめたる際所謂陳平の秘計の秘密を發きたるなど、凡そ說く處のもの、よく漢史の足らざるを補ふ。もしヌルハチ、鐵木眞等の評傳續出するあらば、之と共に、支那史研上に一光明を顯じ來らんや必せり。

◎幕末三俊　　川崎紫山著　　春陽堂版

幕末に當りて、旗下に俊傑の輩出したるもの尠からず、時艱難にして傑士出づの語、實に之を當年に於て證すべきものありき。矢部駿州、川路敬齋、岩瀨鷗處の如き、皆共に輔弼の器なり。然れども時世人を伴はず、彼等が苦心淸節も、末路遂に蹉跌に了りていたむべきもの多し。川崎紫山此三俊を評傳するあり。吾人之を讀んで彼三士の英志を壯とし、また其苦節をいたむ。

◎刑罰及犯罪豫防論　　同情會版

監獄改良を以て目的とせる英國ハワード協會書記ウイリアム、タラック氏は當今歐洲に於ける屈指の監獄學者なり。其著「刑罰及犯罪豫防論」なるものあり。出獄人保護會頭原胤昭等の設立にかゝる同情會は、松尾音次郎氏の筆によりて玆に之を飜譯公刊す。監獄改良及刑罰豫防等に志あるの士女、これを讀まば大に益する處あらん。

◎深山の美人　　弦齋作　　春陽堂版

弦齋が千篇一列的小說の一なり。園爛一時の讀物たるに足れり。

◎西洋娘氣質　　紅葉山人口述　　同

西洋の實事談（？）とかいふを紅葉山人とか或は門下生春葉とかの口述せしものなり。然るに小說の結撰よく整ひ、西洋娘形氣の一種を寫す處、實に面白し。今時の滔々たる小說家には到底これ丈面白味のありて、また筋のよく立ちたる作を出すとは出來まじく思はる。西洋小說の梗概に肉も骨も添へてこの如き口授談話として續々輸入せられなば、大に今の文界をにぎはし、讀者の趣味も高めることの出來ん。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎七本櫻　鏡花作　東華堂

新著月刊の臨時刊行なり。紅葉の門下、乃師の癖を學んでいらぬ處に凝りて通を氣取り、厭味多きものを鏡花と風葉との二人となす。彼等素より多少の才あり、されど此癖習を脱せずんば、其上達を見んとや覺束なし。鏡花の七本櫻、また一種のいやらしき凄味を振り廻して厭はし。

◎女學文壇雜俎　十一月下半期

◎家庭教育と犯罪との關係(原胤昭)　大日本監獄協會雜誌第百十四號
◎女子教育談(近衛篤麿)　教育會報第二百四號
◎肉食妻帶問題を評す　反省の鏡第二年第九號
◎小兒教養上家庭と保姆との關係(三島通良)　女子の友第十一號
◎寄宿生の教育(山川二葉子)　太陽第二十三號
◎學校試驗と幼稚園問題(木場貞長)　教育時論第四百五十四號

片々

◎日本弘道會長の婚姻論　仁義忠行を唱道する日本弘道會會長西村茂樹氏先頃山陰地方に遊び鳥取縣倉吉の旅館に於て有志者二十餘名と語り談次婚姻の事に及ぶ有志者の一人問ふて曰く、婚姻は倫理學上人類の一種の義務たるべき性質を有すべきかと。西村翁之に答へて曰く婚姻は人の肉躰上の情欲を以て始まるものなり、情欲を充すを以て目的となすものなり、人の餓て食を貪り凍て衣ると其性質を同じくしたるものなり、子孫繁殖の事の如き其結果たるに外ならず。然れども既に婚姻の成立したる上に於ては、夫婦相互の義務を生ずることあり、唯婚姻其者を以て直に義務なりと説くべからずと。是に於て有志者其答の意外なるに驚き、交も就て質問する所ありしも、竟に要領を得ずして止めりと、翁の所説果して弘道會の目的に適へるや否やと東京朝日新聞はいへり。

◎教育時論　いよ〳〵出でゝいよ〳〵迷論あり。條約實施後の教育と宗教とを論じて、宗教學校は信仰の自由を束縛するもの、これ違憲の罪なり、されば一種の宗教を教ふるは、信教の自由を妨害する違憲者として、之を告訴するも可なりと。嗚呼、時論記者の大躰に通ずる、何ぞ如斯く疎きや。故西村氏時代の時論は、かゝる少マラヌ議論をばものせざりしに、かゝる迷論を以て多くの凡流教育家を誤まらんとす、其罪輕しとせず。湯本某の時論に於ける、蓄妾の可を說きて、其誌上嘗て有らざるもの汚點を染めたり。某なるもの、國家主義の迷想に陷り、所謂日本主義の妄を執し、學校倫理には、孔子曰く、釋迦曰くの語を用うべからず、万事曖昧模糊たる日本主義にて相通ずべしといふ。日本主義を以て子弟に强ふる、これまた一種の宗教を强ふるものに非ずや、しからば夫子自ら違憲の罪あり、法を立てゝ法に死する商鞅の覆轍爾夫れ之を再びするとなきか。されど日本主義は宗教に非ずといはん。さはいへ、爾はなき名と人にはいひてありぬべし、心の問はばといへる古歌を知る乎。

◎又何故に　內地雜居の曉には、雜居の外國人をして、日本化せしめんとする、教育方法を研究するとを務めざるなどといふに至りては、經綸なきも亦甚だし、いかな。彼教育時論記者の大躰に通ぜず、經綸毫も立たざるとや、毎に之を其議論に認む。而して自ら任ずると重く、將に我も文部大臣たらずんば、教育界を如何せんと自白せんとするの風さへあり。また可憐なりといふべきかな。(以上二件曲浦子)

◎高嶺秀夫氏　新に入りて女子高等師範學校に長となるや、人あり氏を訪ふて、女子教育の事を談ず。氏曰く

女子教育の進むに從ひ一種の弊害を生ずるに至らんを患ふ。歐洲諸國の現況を觀るに教育ある婦人中一種の社會を生じ、男子を忌み、之を厭ひ、生涯獨身を以て終らんとするものあり。此等は種々の事情の爲に嫁期を失したるもの多しと雖も、今日に於ては既に一社會を爲せり。我國に於ては未だ其弊害を見ずと雖も、女子教育の進歩するに從ひ、自ら其弊風の生ずるや明なり。されば女子教育に從事するものは最も此點に注意せざるべからず。

と。されど女子獨身者の生ずるも、また可ならずや、之を生ずるは必ずしも、女子教育の弊害に非ず。

◎反省記者曰く、女子が獨立の生計を爲すに至るものは、男子の威信漸く地に落ち女子をして男子の依賴するに足らざるを知らしめ、爲に結婚の事を輕ぜしむるに至れる故なるとを證す。獨立の生計、女子の爲めには賀すべけれども、畢竟國家の不祥といはざるべからずと、高嶺氏これを以てまた女子教育の弊といはんか。

◎婦人銃獵者　の今年に入りて頗に增加せるよし聞く。これ何等の現象ぞ。

◎主婦の自殺　するは、即ち家庭紊亂の結果なり。而も此頃續々として此種の慘報に接して甚だ之を痛む。

◎日本の人口　昨二十九年十二月三十一日現在(臺灣を除く)日本人戶數は八百万四千八百四十九、人口四千二百七十万八千二百六十四人、內男二千百五十六万千二十三人、女二千百十四万七千二百四十一人なり。即ち男子の女子に超過すると四十

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

一万二千七百九十二人なり。これを前年に比するに、增加すると戸數六万八千八百八十、人口四十三万七千六百四十四人、內男二十一万五千二百七十三人、女二十二万二千三百七十一人なり。即ち昨年中女子は男子よりも七千九十八人丈餘計に出生せしなり。

◎日本の長壽者　長壽者の男子よりも女子に多きは、各國共に同じく、我國いつの年の統計にても其然るを示せるなるが、昨年十二月三十一日現在にて統計したるに百歲以上の男女は左の數なりといふ。

年齡	男	女	計
百年	一〇	六五	七五
百一年	一二	三三	四五
百二年	六	三六	四二
百三年	七	一八	二五
百四年	四	七	一一
百五年	二	四	六
百六年		五	五
百七年	一	一	五
百八年	一	一	二
百九年			二
百十一年	一		一

◎新婦人論　方今歐米學者間に「新婦人論」とて女子大學入學の可否論行はるゝよし。否とするものは即ち女子腦髓の、男子よりも小なりとの陳腐の根據より論ずるものなり。かやうな議論は、男子といふ我儘者の世上に在る限りは、盡きるものには非ず。而して囂々と無益に議論せる間に、女子はいつまでも男子の權利の下には在らで、隆々進步し來りて、彼等空論者をして、省みて驚愕せしむること必ずや遠に在らざるべし。

◎學生の墮落　はいつにても歎息の種なるが、去る十月中神田本鄕の警察署に於て、弄花賭博犯にて拘引したる學生八十一名の多きに達し、內神田署の分醫學生三名、法學生十二名、其他の學生二十八名、本鄕署の分醫學生二十四名、法學生八名、其他の學生六名なりといふ、沙汰の限りの仕末なるかな。

◎遊蕩費四百万圓　とは大壺豪富の散財する處にてはなくて、東京府下の學生が、一ヶ年間に父兄の財を蕩盡する高なりとは驚くべし。東京學資保管會社長渡邊洪基氏の談によるに、全市の官公私立諸學校生徒總數は本年上半季の調査によれば、三万七千六百八十人、一人一ヶ月の學資平均十二圓と見て、是等の生徒が一ヶ月に費す總額四十五万二千百六十圓、一ヶ年の總計五百四十二万五千九百四十圓なり。而して從來の調査によるに、東京の學生中成業するものは、十人に付二人即ち餘の八人は無益に金錢を浪費するものなれば、左の五百餘万圓の中、有効なる學資は僅に百八万五千百八十四圓にして年々四百三十四万餘圓は無効に歸し、其多分は遊蕩費となり果つるものなりと。されど精算し來らば、全都學生の遊蕩費はなほ此四百餘万圓の上に出づると多きものあるべきなり。

◎大阪府會　にては遊廓營業者の要求を容れて、其稅額を減じ、同時に彼等營業者をして、一の公共事業を起さしむ可し、然らば多年同市の問題たる盲啞學校を起さしむべしとの說にて、營業者等も之に賛成の模樣なりと、大阪府會これを以て道を得たるの策となすか。無謀も亦甚しといふべし。

◎良家の子女　には高等專門の學を學ばしめて、徒らに社會の秩序を亂す事なかせんと、奇妙千万なる議論は、例の女鑑の某に出づ。おもへらく高等專門の學とは、身を助くる程に不仕合の藝即ち女子万一の際獨立自活の爲めにするものといふ。論者は學問の何たるを知らざるの徒、此妄論あるも當然にして、笑ふべく、また愍むべし。

◎高等女學校時代　濱尾文相また女子教育の必要をいふ。今の女子教育振張は時勢の必要なり、誰が文相となりとても其必要をいはざる能はず。而して官より以下皆高等女學校設置の設置をいふもの聲囂々たり。實にこの數年間は高等女學校の時代なり。この時代過ぎて後、私立女學校の時代來らん。

時報

◎老忠婢受賞　愛知縣愛知郡笈瀨村佐藤のぶは本年七十餘の高齡なるが、五十餘年間主に忠勤を竭せし廉を以て、今般左の通り賞賜せられたり。

尾張愛知郡笈瀨村寄留　佐藤のぶ

資性溫厚今を距る五十餘年前宮崎吉右衛門の家に傭はれ爾來忠實勞働に服して時に其家計の窮乏を補足し吉右衛門沒後は保育せし當主正氣を助けて亡人と數兒とに事ふる懇篤にして毫も己を利せず能く艱難に堪へ一意主家に竭す多年一日の如し志操洵に奇特とす仍て爲其賞金八圓下賜候事

明治三十年十二月一日　愛知縣知事正五位勳四等江木千之

◎二孝女　愛媛縣越智郡乃万尋常小學校第四學年生長橋サキヨ、全ツギヨの二女は、共に全村大字矢田長橋長七の妹なるが、幼にして母を喪ひ爾來兄の手にて成人せしが、性質至て柔順且つ孝悌の心深く、未だ嘗て一回だに父兄の命に背きしことなく、殊に本年春父重病に罹り四個月の久しき病褥を離れず、殆ど不歸の客たらんとせしかば兩女は幼少の身にも拘かはらず、神佛に祈り、日夜專心看護に怠らず、孝心の酬ゆる處か左しもに重かりし父の病も終に全快するに至りたり。此の事何時しか村內の評判となり、同校長は村長と協議の上、去月二十九日左の善行賞狀を附與したりと云ふ。

資性溫順平素父に事へて孝兄を敬して悌今年父病褥に臥す數月幼少の身を以て日夜痛心看護怠らず終に重病を癒せしむ洵に兒童の龜鑑とするに足る仍て賞品を附與し其善行を表彰す　（愛媛新聞）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎婦人銃獵者の增加　本年十月の銃獵期より昨年まで府下各銃砲店より發賣したる銃砲の總數は八千餘挺に及び、昨年に比すれば銃獵者の人員非常に增加したる由なるが、中に尤も奇なるは婦人銃獵者の員數大に增加したる事にて、就中大分縣大野郡及南海部郡等肥後界若くは、日向境抔の山林原野に富みたる處に於て、一家族中に婦人の銃獵免許請願人は四名の多きに及びたる者さへありとの事なり

◎本夫の放埒により日本橋區室町三丁目乾物商前田某の妻シンなるもの刄に伏して自殺す。

◎雅樂協會宮島春松氏等の設立にかゝれる雅樂協會は、日本古樂の保存幷に新國樂制定を目的とするものなるが、去る五日上野音樂學校に於て其第一回演習會を開きたり。

◎三井家の美擧　麴町區下二番町三井家にては每週三回師を聘して、本年八歲なる令息の爲めに、復習の監督を囑する傍、夫人ば一家の女中を悉く集め、修身上の講話、訓戒を說き、且つ各自の考を述べ其疑を質す等の事ありといふ。

◎學田寄附　兵庫縣氷上郡國領村にては、村民擧つて敎育に熱心し、同地の學校に寄附せし學田の時價六千二百餘圓及び栽培樹木の數一万以上に達せりといふ

◎母親の不注意　福井縣の農夫の妻某、出京して當歲の小兒を背負ひて上野公園を見物中、我子のいつの間に死せしに驚き、警察署へ訴へ出てしに、こは母親の發熱せし乳を吞ましめたるが爲に毛細管氣管支炎を發して僅の間に死去したるものなりと。また神田鍛冶町別所某の妻は去る十月生れの男子に添乳して眠りしまゝ、小兒は乳房に壓せられて死したりと。

◎小學女生徒の兵式躰操　日本橋區の某市立小學校にては、此程より女生徒に兵式躰操を課したりとなん、新聞紙は傳ふるなり。

◎日本婦人矯風會の勝利　加奈太の英人某人は兼て万國婦人矯風會に懸賞して、何國の矯風會にても、二年間に其會員を二倍にするものは、賞旗を與ふべく、また加奈太の矯風會にして同成績を擧げたらんには、賞旗に附するに、五百金を以てすべしと約束したるが、本年十月加奈太トロント市に於て開かれたる萬國婦人矯風會大會に於て、日本矯風會の成績正に某氏の懸賞箇條に適當したるを以て、代表出席員井上女史は其賞旗を授けられ、いたく面目を施したりとなん。

◎婦人矯風會設立十年紀念會　は本月四日女子學院講堂に於て開かれ、元田作之進氏等の演說ありて後、役員の改選を行ひ、日本中央部會頭には矢島揖子再任し、東京部會頭には潮田ちせ子當撰したり。

◎瀧の川學園義捐慈善會報告　本年四月上野公園博覽會跡にて開會せられたる、同慈善市の決算報告によるに、寄附金千百六十三圓八十四錢、入場劵料五百三十四圓五十錢、賣上高五百三十八圓七十錢二厘總計二千二百三十七圓四錢二厘、支出總計三百七十八圓十八錢三厘、差引總益千八百五十八圓八十五錢九厘なり。

◎女子高等師範學校々長　去月文部大臣の交迭と共に秋月新太郎氏非職となり、高嶺秀夫氏入りて同校々長に任ぜられたり。

◎一夫一婦の建白　婦人矯風會は、帝國議會創設の砌りより每回かゞると建白したる一夫一婦の法櫂案及海外醜婦取締法案制定の件は、昨今の議會にては、委員會にまで附せられしも、あへなく否決せられしが、今年度もまた〳〵兩院へ建白の筈にて有志者の調印を求めつゝあり。

◎巖本善治　社長巖本は、視察の爲め去る二日臺灣に向け出發したり。而して來年正月中旬には歸京の見込みなり。

海外女報

◎上海女學校設立の計畫　近頃淸國浙江の富紳道臺嚴信厚知府經蓮珊諸人の首唱にて、上海に女學校を設立する計畫あり、去月十五日同志者の協議會を開きしが、集會せる者約そ百名に上れり、該校は泰西の言語文字を主とし、醫、理、化の三學科を置き、其敎師は今回米國より歸朝したる康石二女史、其他の大家閨秀を聘する筈なりと云ふ。

◎歐米上流社會の贅澤　歐米の淑女紳士が衣裳其他に豪奢を極むるは今更の事ならねど、別けて彼等が假裝會の衣裳髮飾に費やす所は、最も大なるが如し。衣裳に二百磅乃至三百磅（約二千圓乃至三千圓）を費すは珍しからず、米國富豪マッケー夫人の如きは、曾て眞珠を縫ひ付けたる一萬磅（約十萬圓）の衣裳を着けたることあり。ブッキンガム公爵は、巴里駐剳の英國大使たりしとき、天鵞絨の地にダイヤモンドを縫ひ付けたる八萬磅（約八十萬圓）の衣服を纏ひて、假裝會に現はれ、以て豪華に誇れる巴里人士の目を驚かせることありき。假裝會の鬘は通常十磅乃至十五磅位（約百圓乃至百五十圓）なれども、或は數十磅の多きに上るものもあり。近頃某所の會に英國皇太子殿下の被られしものは、重さ僅かに半オンス（約三匁七分）に過ぎず、此の如く輕きものは從來稀に見る所なりと、淑女の理髮料は通常半ギニー位（約二圓七十五錢）なれど、中には二ギニー（約十一圓）を費すものもあり。甚だ贅澤なるが如く見ゆれども倫敦の淑女社會には化粧料として、一年二百磅乃至三百磅（二千圓乃至三千圓）を費すもの少からざるを思へば、敢て異とするに足らざるべし。淑女の身に燦爛たる寶玉類の價は幾ど勝げて計ふべからざる程なるが、試みに本年の春倫敦に催ほされし一宴會に就て觀るに、淑女四人が其靴に附ける寶玉丈にても五百磅（約五千圓）に上り、中にも某夫人の如きは靴飾に百五十磅（約千五百圓）を費せりといふ。（東京朝日新聞）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

大日本女學會

會員募集廣告

總裁小松宮妃殿下副總裁鍋島侯爵夫人

●本會贊成員は有栖川宮大妃殿下華頂宮妃殿下を始め奉り貴婦人方八十八名

趣旨 本會の趣旨は女子教育の普及發達を圖らむがため女學の講義録を發行し入學すべき女學校の設けなき土地に住める者又は父母のもとを離れ難き事情ある者をして居ながらに通信教授を受けしむるに在り其講義は極めて平易懇到を旨とし實踐の用に應じ輕佻の風を避け以て賢良貞淑の品性を涵養せむとを期す●本會は明治二十八年の創立にして千の會員已に第一回の講修を終りたれば今や新に學科を增設し紙面を刷新し更に第二回講修期を開き新に會員を募集す志ある淑女達とく入會あれかし何時入會あるも第一巻より送本差支なし●本會講義録は女學講義と稱し畏くも皇后陛下叡覽を給ひ特に大御歌下賜の光榮を辱うす一巻の紙數菊判二百頁以上の優美なる大冊子にして毎月廿五日發行す總て講義の質問に答へ歌文習字の添削批評をも爲す●會費一箇月三十錢束修三十錢●會則希望者は郵券二錢添へて申込みあれ

學科及び講師 ●修身(女子修身談)細川華族女學校長が從來同校に於て演説せられたるものに係る(禮法)佐方女子高等師範學校教諭●國語(國文)關根學習院教授(作歌)大口御歌所錄事(作文法)今泉城北中學校長●漢文、土屋華族女學校教授●歷史(日本歷史萬國歷史)大森文學士●地理(日本地理萬國地理)喜田文學士(地文)脇水理學士●理科(物理化學)近藤工學士(博物)石川理學博士(生理衞生)未定●家事(家庭教育)三輪田高等女學校講師(家事經濟)後閑女子高等師範學校教諭(家事衞生)三宅醫學博士(小兒衞生)三島醫學士●割烹、御園華族女學教員●小兒心理學、下田文學士●裁縫、渡邊東京裁縫學校長●習字、●華族女學校教授●音樂、未定●手藝(活花點茶)田邊東京女學館講師

附錄 ●史談、下田華族女學校學監●小説、逍遙、學海、紅葉三大家●お伽譚、漣山人、●詞藻●質問應答●雜錄●雜報

第一巻既に發行せり

東京市麹町區土手三番町廿八番地

大日本女學會

女學雜誌編輯上の用向並に雜誌及書籍等寄贈の節は必ず左の社名にて御差出し被下度候

東京麹町區下六番町六番地

櫻井彦一郎(鷗村)

移轉廣告

本社今般都合により東京巣鴨村字庚申塚二百四十六番地に移轉仕候間此段廣告仕候也

右に付本社への御用向の方は同所宛にて御差出し被下度また自今雜誌及び書籍代金御拂込みの節は東京駒込郵便支局宛にて爲替御取組み被下度候

明治三十年十一月

女學雜誌社

東京裁縫女學校長渡邊辰五郎著

裁縫教授書

全參冊 定價金壹圓

取次販賣 東京麴町下六番町 女學雜誌社

國學院雜誌

第三巻第十二 毎月一回發行 一冊定價金十五錢

◎論說
●音便考……中郡秋香
●外來語に就きて……金澤庄三郎
◎講述
●殿舍圖解（つゞき）……關根正直
◎評釋
●國文、榮華物語（つゞき）……關根正直
◎雜錄
●古謠集（承前）……栗田寛
●野中兼山……井野邊茂雄
●國學（承前）……下田義天類
●舊幕政談（つゞき）……内藤耻叟
●古今序闇夜の礫……鹿持雅澄遺 伊藤乘興寄
◎問答
●解義（數十件）
◎彙報
●道德界の退潮●學者の責任文壇の活氣●新体詩家の資料●群書類從の再版●高僧傳の索引●唐六典●播磨風土記の原本●大江家の日記●圖書審査官●落葉片々●新刊批評
◎詞林
●明治神庫記（丸山作樂）●横須賀紀行（水落秋塘）●短歌十六

發行所 東京麴町區飯田町五丁目 國學院

内務省監獄事務官小河滋次郎君序文
英倫ハワルト協會書記タラック氏著述
奈良中學教授松尾音次郎君譯

刑罰及犯罪豫防論

菊版大本五百頁正價八十錢（郵税十二錢）
假綴正價七十三錢（郵税十錢）

社會事業ハ刻下ハ基督教徒ノ刮目熱注セラルヽ大問題トナレリ就中本書論ノ如キモノ殊ニ感化院出獄人保護事業ハ執テ以テ基督教徒ノ自ラ任スヘキ慈善事業タリ今ヤ各地方ニ此種類ノ計畫アリ既ニ資金アルモ適任ノ人ナキニ苦ムト聞ク此際吾カ教友中斯道ニ就テ考究セラレ之ヲ助クラルヽヿアラハ吾輩ノ企望達セリト云フヘシ本書ハ右考究材料ニ宜シク著者タラツク氏ハ世界有數ノ學者トシテ改良論者トシテ英名夙ニ万國ニ雄飛スル名士ナリ說、極テ斬新、論、極テ精確、原書ハ最近年ノ刊行ナレ𪜈既ニ三版ヲ刊行スト幸ニ松尾先生ノ精譯ナリ就テ諸彥ノ考究ヲ乞フ

東京市神田區南神保町八番地 同情會

賣捌所
東京市京橋區出雲町一番地 警醒社書店
仝 銀座四丁目二番地 教文社
仝 神田區一ツ橋通町七番地 有斐閣書房

女學雜誌一手賣捌

東京神田區表神保町 東京堂

◎クリスマス、新

◎クリスマス、新年贈物

故若松賤子女史譯述

再版

小公子

全一冊洋裝美本
紙數三百五十頁
正價金三十五錢
郵税八錢

近代歐米の讀書社界を震動し、劇場に演ぜらるると數十回、一代の流行を左右して一時少年の子をして悉皆小公子の如くならしめしと云ふは、此書原本奇代の勢力なり。純潔無邪氣、天使の如き一少年は、頑陋執拗の老侯爵を感化し、德に隣あり、母に佳人あり、貧しきを憐み、小作者を愛撫し、言行惣て甘露慈雨の如し、讀み去り讀來るうち讀者亦自ら化せらるるを覺ゆ、何ぞ其の可憐高潔なるや、少年固より讀まざる可らず、婦女老人亦讀まざる可らず。賤子女史曩に其前篇を譯して世に公にするや、譯文の巧妙を以て亦た一時に喧傳す。森田思軒居士之を以て明治年間譯文の最上乘のものとし、激賞措かず、曾て其第一頁を見て忽ち驚き、一夜通讀、曉に徹し遂に卷を棄る能はざりしと云へり。然るに女史其後篇を公にするに及ばずして不幸長逝し、知人愛惜の情を寄せらるると切なり。即ち玆に其遺稿を收め、女史が一周忌日に會せんとして前後二篇を合せ刊行せしむ。其友湘煙中島女史は字を題し、鄕友松井昇氏は密畫を附せり、同好の士、希くは一讀を賜へ。

出版元 東京日本橋區本町三丁目 博文館

大賣捌 東京麹町區下六番町六番地 女學雜誌社

内閣統計課編纂

日本帝國第十六統計年鑑

●黒表紙金字入製本美麗紙數凡千二百頁
正價金二圓五十錢會員ニ限リ(金貳圓貳拾錢)
市外は別に運賃を要す

本書は土地、人口、教育、社寺、民事及刑事裁判、警察、監獄、陸軍、海軍、農業、山林及鳥獸獵、漁業及製鹽、鑛山、工業、外國貿易、内國商業、銀行及金融、貯金及保險、會社、陸運、水運、郵便及電信、築造、衛生、教育、財政、爵位及褒章、議員撰擧、官制及附錄、臺灣及北海道の三十科目に分ち國家萬般の現象を網羅せし者にして第十五に比すれば事實新たに且つ增加せり職業の何たるを問はず苟も有志者に在ては一日も缺くべからざるは玆に喋々するを用ひず今回又特許を得て之を出版し廣く諸君の需に應ぜんとす依て御入用の諸君は本會出版部へ御申込あれ

發行所 東京統計協會出版部 東京市京橋區山城町六番地

社告

若松しづ子 英文集

巖本嘉志子

正價金六十錢
郵税金六錢

布川靜淵 小此木秀野 合著

俳諧史傳

正價金二十七錢
郵税金四錢

鈴木弘恭 述

百人一首講義

正價金二十八錢
郵税金四錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

明治廿五年三月十五日遞信省認可

（四五五）

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治廿五年三月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY